

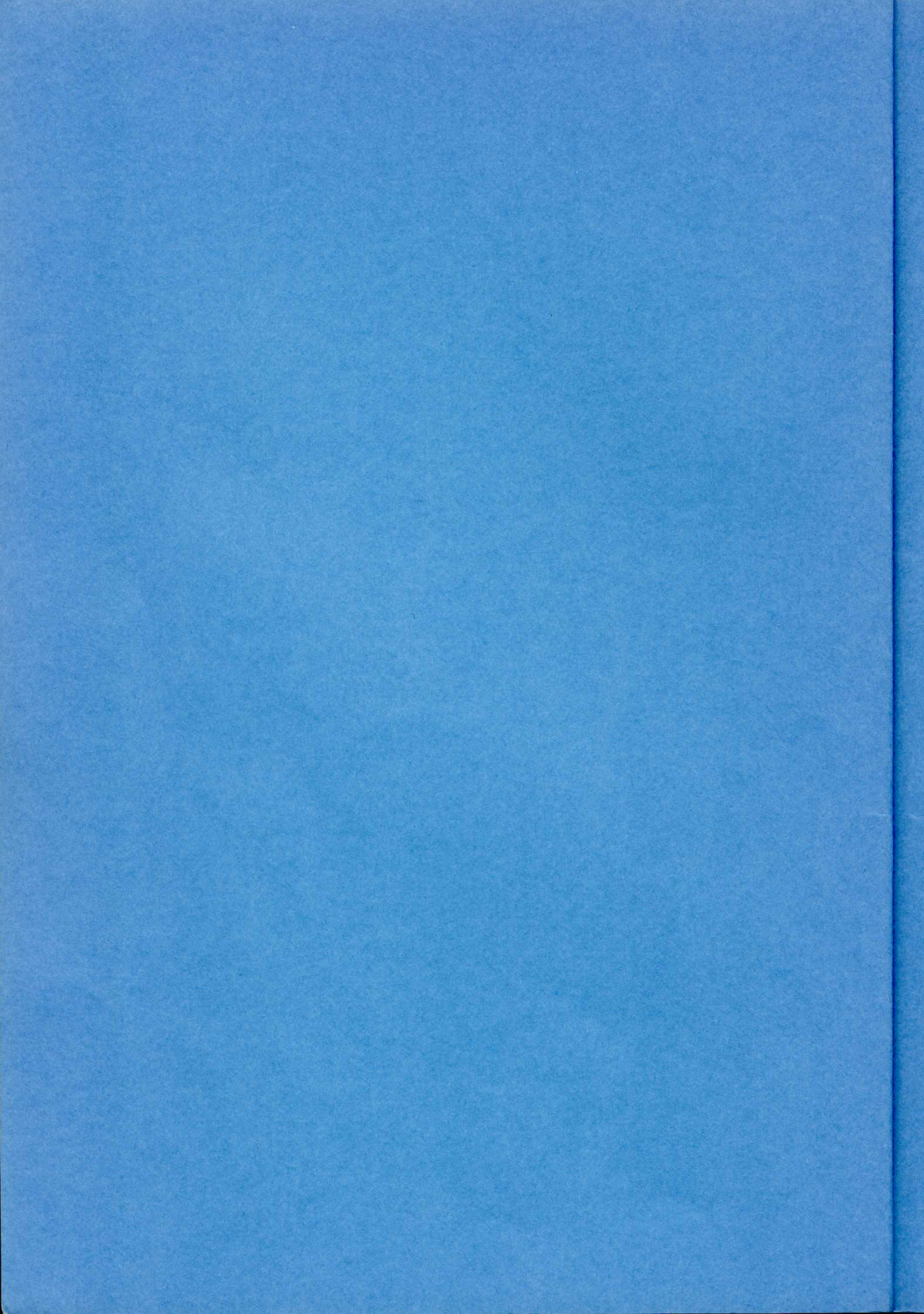
みる・かたる・つくる

# 千葉県立美術館年報

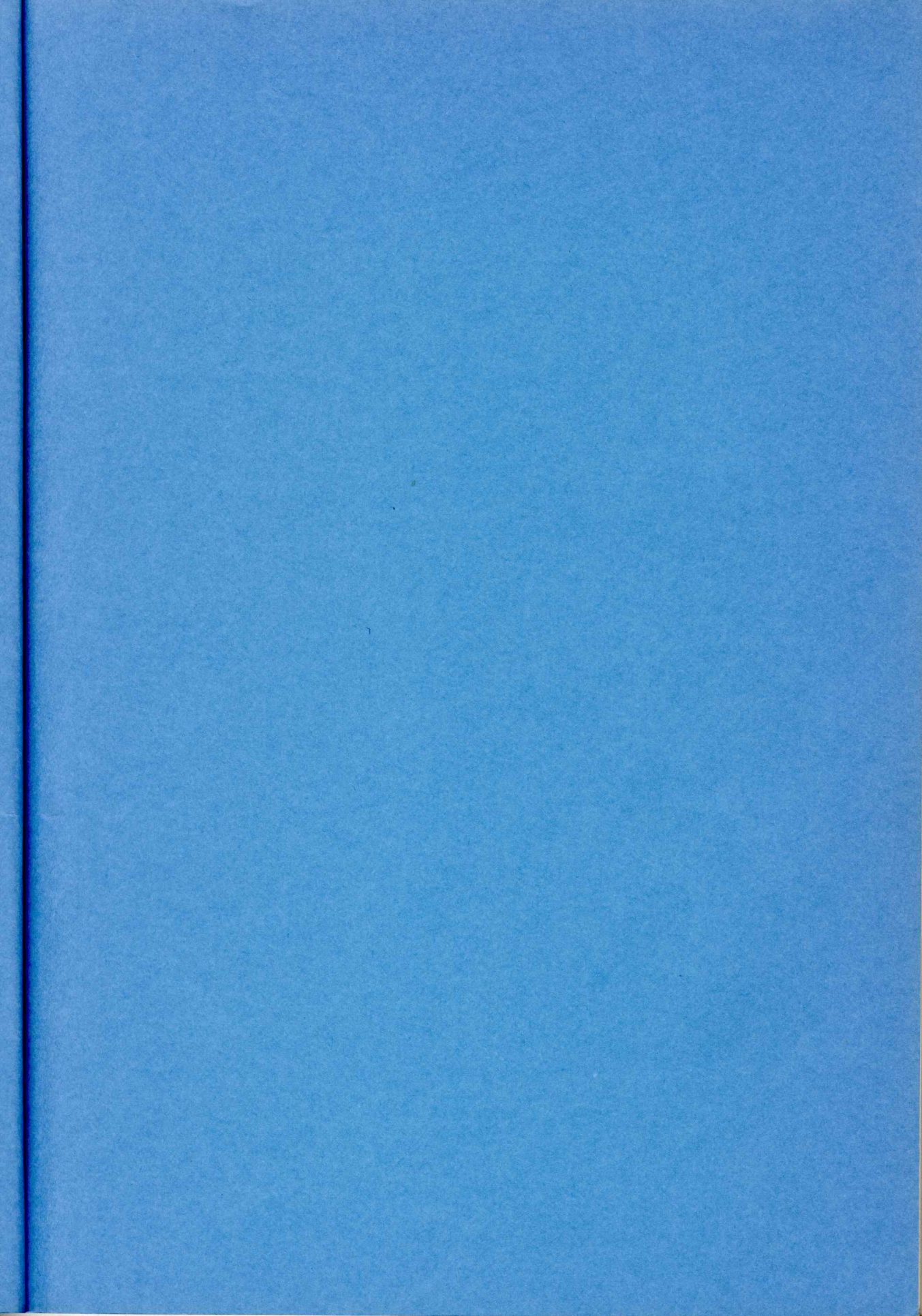
昭和55年度

CHIBA PREFECTURAL MUSEUM OF ART

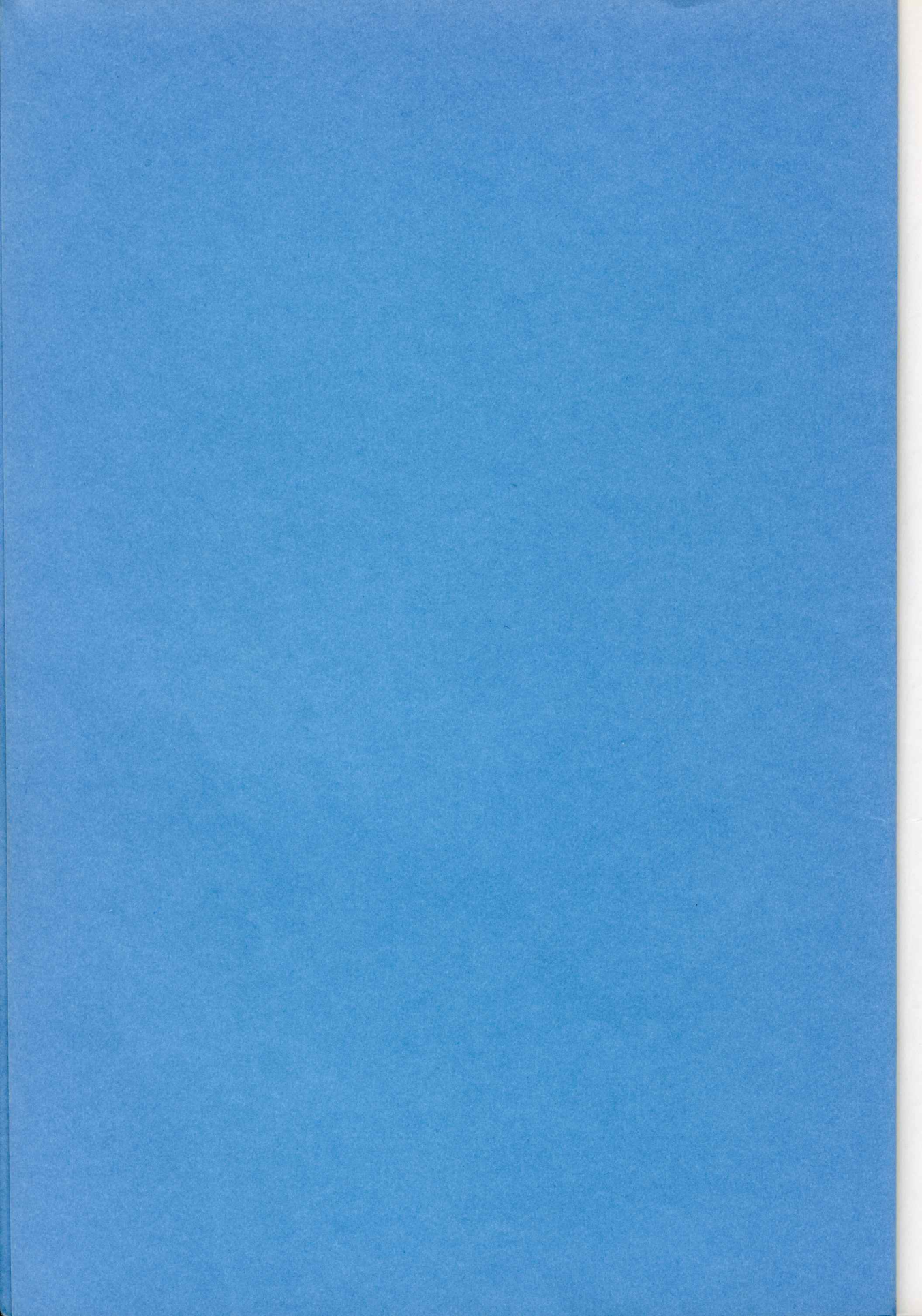














# ごあいさつ

昭和55年度下半期ご挨拶の経営実績を主体にした年報を刊行し、関係者の皆様にお届けすることになりました。

本期は、昭和55年10月の開始以来、関係者各位の御協力・御



大乗化に  
御社の成長  
の発展、な  
まし、年商  
増大として  
更に従事  
していきたい  
るべき道  
御社の御  
ご挨拶の  
ていなど  
経営大学  
御社を第  
一、現代商  
社のため  
しました。  
名ない年  
報のなか

ギユスタヴ・クールベ「雪の中の小鹿」

千葉県立美術館長

高橋 在久

- 11..... 青 野 孝 幸
- 12..... 奥 野 浩 一
- 13..... 野 村 浩 一
- 14..... 奥 野 浩 一
- 15..... 野 村 浩 一
- 16..... 奥 野 浩 一
- 17..... 野 村 浩 一
- 18..... 奥 野 浩 一
- 19..... 野 村 浩 一
- 20..... 奥 野 浩 一
- 21..... 野 村 浩 一
- 22..... 奥 野 浩 一
- 23..... 野 村 浩 一
- 24..... 奥 野 浩 一
- 25..... 野 村 浩 一
- 26..... 奥 野 浩 一
- 27..... 野 村 浩 一
- 28..... 奥 野 浩 一
- 29..... 野 村 浩 一
- 30..... 奥 野 浩 一
- 31..... 野 村 浩 一
- 32..... 奥 野 浩 一
- 33..... 野 村 浩 一
- 34..... 奥 野 浩 一
- 35..... 野 村 浩 一
- 36..... 奥 野 浩 一
- 37..... 野 村 浩 一
- 38..... 奥 野 浩 一
- 39..... 野 村 浩 一
- 40..... 奥 野 浩 一
- 41..... 野 村 浩 一
- 42..... 奥 野 浩 一
- 43..... 野 村 浩 一
- 44..... 奥 野 浩 一
- 45..... 野 村 浩 一
- 46..... 奥 野 浩 一
- 47..... 野 村 浩 一
- 48..... 奥 野 浩 一
- 49..... 野 村 浩 一
- 50..... 奥 野 浩 一
- 51..... 野 村 浩 一
- 52..... 奥 野 浩 一
- 53..... 野 村 浩 一
- 54..... 奥 野 浩 一
- 55..... 野 村 浩 一
- 56..... 奥 野 浩 一
- 57..... 野 村 浩 一
- 58..... 奥 野 浩 一
- 59..... 野 村 浩 一
- 60..... 奥 野 浩 一
- 61..... 野 村 浩 一
- 62..... 奥 野 浩 一
- 63..... 野 村 浩 一
- 64..... 奥 野 浩 一
- 65..... 野 村 浩 一
- 66..... 奥 野 浩 一
- 67..... 野 村 浩 一
- 68..... 奥 野 浩 一
- 69..... 野 村 浩 一
- 70..... 奥 野 浩 一
- 71..... 野 村 浩 一
- 72..... 奥 野 浩 一
- 73..... 野 村 浩 一
- 74..... 奥 野 浩 一
- 75..... 野 村 浩 一
- 76..... 奥 野 浩 一
- 77..... 野 村 浩 一
- 78..... 奥 野 浩 一
- 79..... 野 村 浩 一
- 80..... 奥 野 浩 一
- 81..... 野 村 浩 一
- 82..... 奥 野 浩 一
- 83..... 野 村 浩 一
- 84..... 奥 野 浩 一
- 85..... 野 村 浩 一
- 86..... 奥 野 浩 一
- 87..... 野 村 浩 一
- 88..... 奥 野 浩 一
- 89..... 野 村 浩 一
- 90..... 奥 野 浩 一
- 91..... 野 村 浩 一
- 92..... 奥 野 浩 一
- 93..... 野 村 浩 一
- 94..... 奥 野 浩 一
- 95..... 野 村 浩 一
- 96..... 奥 野 浩 一
- 97..... 野 村 浩 一
- 98..... 奥 野 浩 一
- 99..... 野 村 浩 一
- 100..... 奥 野 浩 一



## 目 次

ご あ い さ つ	1
沿 革	2
管 理 運 営	3
機 構	5
施 設	11
事 業 報 告	15
○ 常 設 展	17
特 別 展	19
企 画 展	26
千葉県芸術祭	32
○ 団 体 展	34
○ 教 育 ・ 普 及	40
○ 昭 和 55 年 度 事 業 一 覧	50
○ 利 用 状 況	52
○ 日 誌 抄	53
関 係 令 規	54



昭和55年度千葉県立美術館の経営実績を主体にした年報を刊行し、関係者の皆様にお届けすることになりました。

本館は、昭和49年10月の開館以来、関係者各位の御協力・御支援により“みる・かたる・つくる”をモットーに、大衆化に努めてまいりましたが、昭和55年度は、「近代日本美術の巨匠展」を皮切りに「竹久夢二展」・「高村光太郎、その芸術」などの特別展をはじめ、企画展・常設展・団体展を開催し、年間175,827 人もの入館者を得ることができ、地域の美術館としてようやく定着してきたと自負しております。今後も、更に反省を加え、より充実した美の広場としての活動をしてまいりたいと考えております。

更に、昭和55年度は、本館にとって飛躍の契機となるべき県民アトリエでの活動が始まり、また、美術品取得基金条例が制定・実施されました。

県民アトリエは、“かたる・つくる”の拠点として、各種の実技入門講座を通して作品制作の喜び・楽しみを増していただき、また、美術の見方・考え方を深めるための美術館夏季大学などを企画し、運営して参りました。

一方、資料収集につきましては、地域に根ざした美術館を基本としながら、日本近代洋画の先駆者・浅井忠を軸に、近代美術史の宝庫を目指して、より一層収蔵作品の充実を図るため、調査研究とあいまって美術品取得基金条例を活用いたしました。

昭和56年度は、本館にとって更に飛躍しなければならない年であります。今後とも、関係機関・団体並びに、皆様のお一層の御指導と御支援をお願いする次第です。

昭和56年 8 月

千葉県立美術館長

高 橋 在 久



# 沿革 てちりあこ

## 概要

千葉県立美術館は、昭和43年にまとめられた県立博物館設置構想に基き、建設計画をすすめ、昭和48年4月教育庁文化課に美術館準備班を置き、開館事務にあたった。同49年3月第1期工事の展示棟が完成し、4月1日千葉県立美術館として機関設置し、10月23日開館式を挙げ、一般公開を始めた。同51年2月第2期工事の管理棟が完成した。

なお、千葉県の第5次総合5ヶ年計画により、第3期工事として、県民アトリエの建設に昭和54年3月27日着工、同55年2月29日竣工し、ここに当初建設計画は完了した。

## 運営方針

- 県民のための美術館として、明るい親しまれる美術館。
- 学校教育・社会教育との関連から、教育普及活動を重視し、楽しく学べる美術館。
- 県民と美術家との交流の広場とし、相互の理解と向上を図る美術館。
- 房総の地にかかわりのある作家の作品と、関係資料の収集と研究をめざす美術館。
- 美の広場として、広く美術資料・情報等を収集し、みる・かたる・つくる活動を総合的に展開する美術館。

昭和44年12月9日 第1回千葉県立美術館建設懇談会が開かれる(委員15名)

昭和45年1月19日 県立美術館建設の請願書が2月県議会で採択される

昭和45年7月24日 建設地として千葉公園に内定する

昭和45年11月12日 第1回美術館設置準備専門委員会が開かれる(委員10名)

昭和46年3月31日 千葉公園内の美術館基本構想成る

昭和46年6月24日 体育館移転問題等で千葉公園内建設が不可能となる  
代案として千葉中央港埋立地が提示される

昭和47年1月5日 建設地を千葉中央港の埋立地に決定し、使用について開発庁長と教育長で覚書を交換する

昭和47年3月31日 基本設計完了する(株式会社大高建築設計事務所)

昭和47年7月31日 展示棟 第1期工事の実施設計完了する

昭和47年10月13日 展示棟建築工事請負契約議案可決される

昭和47年12月10日 展示棟建築工事着工(管理・大高建築設計事務所、施工・株式会社竹中工務店)

昭和48年4月1日 文化課に美術館準備班を置き、開館事務にあたる

昭和48年11月30日 管理棟 第2期工事の実施設計完了する

昭和49年3月31日 展示棟建築工事竣工

昭和49年4月1日 千葉県立美術館発足する職員14名

昭和49年10月23日 開館記念式典を行なう

昭和49年10月24日 開館記念展「千葉県美術展覧会」を開催 一般公開を始める

昭和50年3月13日 管理棟建築工事請負契約議案可決される

昭和50年3月15日 管理棟建築工事着工(管理・大高建築設計事務所、施工・株式会社竹中工務店)

昭和51年2月15日 管理棟建築工事竣工

昭和51年3月2日 管理棟完成記念特別展「浅井忠とその師弟展」を開催する

昭和51年6月7日 寄付によって、正面玄関に植栽を行なう

昭和52年3月12日 彫刻の屋外展示をはじめめる

昭和52年4月10日 展示棟の一室に美術普及室を開設する

昭和53年1月18日 外構工事として、駐車場が拡張され、101台の収容となる

昭和53年2月21日 美術普及棟の準備会が発足する

昭和53年10月17日 債務負担行為によって美術普及棟建築予算がつく

昭和53年11月18日 浅井忠像 完成除幕式

昭和53年11月30日 美術普及棟実施設計完了する

昭和54年1月8日 美術普及棟を県民アトリエと改称する

昭和54年3月5日 県民アトリエ建築工事請負契約議案可決される

昭和54年3月27日 県民アトリエ建築工事着工(管理・大高建築設計事務所、施工・株式会社竹中工務店)

昭和55年2月29日 県民アトリエ建築工事竣工

昭和55年3月16日 県民アトリエ完成記念講演会

昭和55年3月26日 七宝焼講習会が県民アトリエを使う初の実技研修として行われた

昭和55年9月9日 県民アトリエに情報資料室を開設する

# 管理運営

施設および事務分掌 (58.3.31現在)

庶務課(主任) 庶務課(主任) 庶務課(主任) 庶務課(主任) 庶務課(主任)

昭和49年10月開館以来、6年余りを経過して、県民の参加する文化活動としての“みる・かたる・つくる”活動がようやく定着し、地域の美術館として力強く歩み出すことができるようになった。入館者数も年毎に増加し利用度も高まってきている。

施設では、当初の建設計画通り、展示棟・管理棟・県民アトリエの三棟が完成し、現在は、設備・内容の充実を目指している。また、本館の特色となっている県民アトリエは、単に「みる」だけでなく、「かたる・つくる」活動を通して、美術に対する体験と理解を深めるために、各種の事業をすすめている。

美術館資料の収集も、順調な伸びを示しており、特に、昨年年度制定された美術品取得基金条例を活用して、その充実を図っている。

残された問題は、平日の交通の便である。日曜・祭日なみに直通バスが運行されるように、一層の努力をはらっていききたい。

なお、今後さらに、調査研究を重ね、事業の充実・発展を図り、県民に親しまれる、明るく楽しい美の広場となるよう努めていきたい。

千葉県立美術館協議会(財)

千葉県美術館資料審査委員会(財)

千葉県立美術館美術資料受入委員会

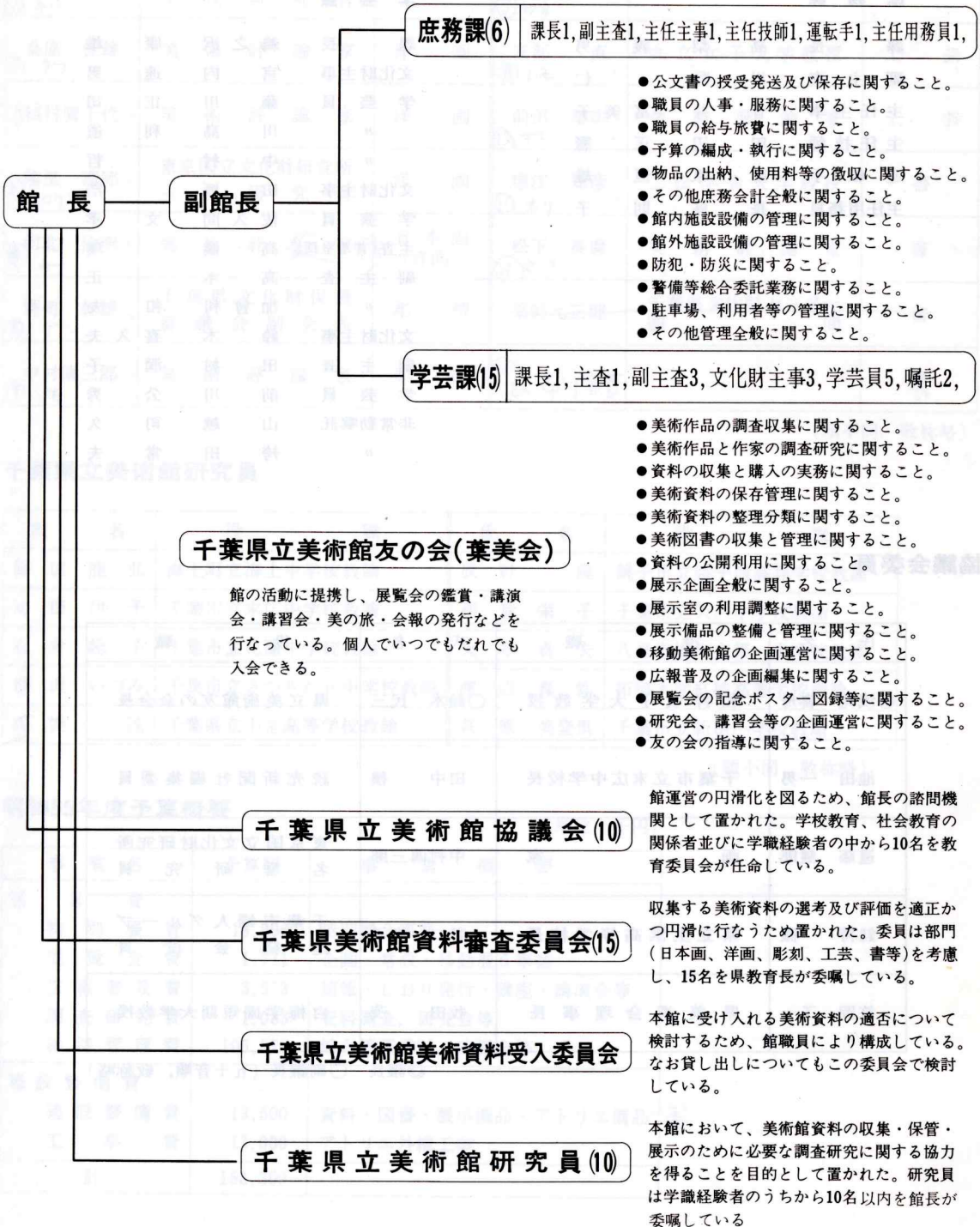
千葉県立美術館研究員(財)





# 機 構

## 組織および事務分掌 (56.3.31現在)





# 職員

館長 高橋 在 久  
副館長 安増 順

## 庶務課

課長 高梨 義 男  
副主査 川野 仁  
主任主事 菅井 富美子  
主任技師 田辺 正 憲  
運転手 篠原 恒 雄  
主任用務員 長島 則 子

## 学芸課

課長 鶴之 沢 康 雄  
文化財主事 宮内 速 男  
学芸員 藤川 正 司  
" 川島 利 道  
" 中村 哲 浩  
文化財主事 田坂 浩 孝  
学芸員 佐久間 文 瑛  
主査(普及室長) 高橋 正 夫  
副主査 高木 和 久  
" 加曾 利 夫  
文化財主事 鈴木 喜 子  
副主査 田村 潤 秀  
学芸員 前川 公 久  
非常勤嘱託 山越 司 夫  
" 袴 田 常 夫

## 協議会委員

氏名	役職	氏名	役職
◎浅見 喜舟	和洋女子大学教授	○鈴木 民三	県立美術館友の会会長
池田 一男	千葉市立末広中学校長	田中 稷	読売新聞社編集委員
遠藤 健郎	画家	中村傳三郎	東京国立文化財研究所 名誉研究員
釧持 徹	県立生浜高等学校長	野口 貞子	千葉市婦人グループ 連絡会役員
笹岡 了一	県美術会理事長	牧田 茂	白梅学園短期大学教授

◎議長 ○副議長 (五十音順, 敬称略)

## 千葉県美術館資料審査委員会委員

氏名	役職	部門	氏名	役職	部門
⑦ 弦田平八郎 ワル	神奈川県立近代美術館 学芸課長	日本画	⑫ 本間正義 本	美術評論家	彫塑
⑧ 細野正信 本	東京国立博物館 主任研究官	日本画	③ 金子量重 カネ	大妻女子大学講師	工芸
⑤ 桑原住雄 77	美術評論家	洋画	⑩ 友部直 トモ	共立女子大学教授	工芸
① 植村鷹千代	美術評論家	洋画	⑬ 前田泰次 マエ	美術評論家	工芸
② 陰里鐵郎 アサ	東京国立文化財研究所 主任研究官	洋画	⑪ 堀江知彦 ホリ	二松学舎大学教授	書
④ 河北倫明 カハ	美術評論家	日本画 (洋画)	⑭ 松下英麿 マツダ	美術評論家	書
⑥ 郡司幹雄 ガン	千葉県文化財保護 審議会副会長	彫塑	平野元三郎	千葉県文化財センター 顧問	書
⑨ 中村傳三郎 ナカ	美術評論家	彫塑	⑬ 以本信士 イホ		書

(順不同、敬称略)

## 千葉県立美術館研究員

氏名	役職	氏名	役職
飯田能弘	海上町立海上中学校教諭	辰野隆	銚子市立銚子西高等学校教諭
池田伊子	千葉市立末広中学校教諭	利倉栄子	千葉市立天戸中学校教諭
石倉総子	千葉市立花園中学校教諭	大木貞夫	八日市場市立第一中学校教諭
岩沢いづみ	千葉市立さつきが丘中学校教諭	渡辺真弥	拓殖大学紅稜高等学校教諭
高橋達	千葉県立小金高等学校教諭	萩原美登里	千葉市立新宿小学校教諭

(順不同、敬称略)

## 昭和55年度予算概要

(単位：千円)

事業名	予算額	事業概要
運営費		
特別展費	18,866	特別展3事業
展覧会費	1,711	企画・常設・移動展6事業
広報普及費	3,573	館報・しおり発行・講座・講演会等
調査研究費	1,083	資料調査、研究会等
維持管理費	106,576	館舎管理委託、協議会等
施設整備費		
施設整備費	13,500	資料・図書・展示備品・アトリエ備品
工事費	13,000	アトリエ外構工事
計	158,309	



収蔵資料

(昭和56年3月31日現在)

収蔵別内訳

種別	区分	保管換	購入	寄付	合計
日本画		23	25	46-45(1)	93-94(1)
洋画		35	121-94(27)	255-178(77)	307-411(104)
彫塑		10	24	14	48
工芸		9	32-29(3)	28-14(14)	5-269(7)
書		14	13	8-7(1)	3-435(1)
版画		3	84-79(5)	40-37(3)	1-19127(8)
合計		94	264-299(35)	295-291(4)	653-284(131)
研究資料		73	86	298-250(48)	409-457(48)
教育資料		116	0	239	355
合計		189	86	489	764

昭和55年度新収蔵作品一覧

日本画

番号	作家名	作品名	制作年	材質・形状	寸法	受入方法
1	鶴田 照	夕 曠	昭53	紙・着彩	179.0×272.0	寄贈
2	"	柿 の 家	昭43	"	160.0×345.0	"

洋画

番号	作家名	作品名	制作年	材質・形状	寸法	受入方法
1	板倉 鼎	静 物	昭2	油 彩	72.5×91.0	購入
2	"	金 魚	昭3	"	65.0×92.0	"
3	浅井 忠	小 流 と 叢		水 彩	16.5×24.5	"
4	"	欧州人物絵図		"	43.0×57.0	"
5	鶴田 吾郎	千川堤の桜	明45	油 彩	33.3×45.5	"
6	"	アムールのプラゴエンチェスク	大8	"	36.0×41.4	"
7	"	初 秋	大10	"	116.7×90.9	"
8	"	婦 人 像	昭10	"	60.6×80.3	"
9	"	蒙 古 の 女	昭12	"	145.5×97.0	"
10	笹岡 了一	放蕩息子の帰宅	昭35	"	161.0×129.0	"
11	熊谷 文利	佳境に入る女祈禱師	昭53	"	160.5×110.0	"
12	中西 利雄	長 崎 に て	昭11	鉛筆デッサン	25.7×36.4	"
13	"	T 嬢	昭10	墨 デッサン	34.7×23.7	"
14	"	マドマーゼルH(A)	昭15~18	鉛筆デッサン	40.3×27.8	"
15	"	マドマーゼルH(B)	昭15~18	"	40.3×27.8	"
16	"	帽子をかぶった女	昭10	"	36.4×25.7	"
17	松澤 茂雄	海 辺 の 裸 婦	昭56	油 彩	162.2×130.1	"
18	熊谷 文利	薬を飲む祈禱師	昭54	"	110.0×160.5	寄贈
19	高橋 規矩治郎	漁 船	昭40	"	116.3×160.0	"
20	久保木 彦	鉄路の信号ボックス	昭53	"	165.0×128.7	"
21	小堀 進	花 と 海	昭49	水 彩	53.0×73.0	"
22	"	セ - ヌ 川	昭48	"	53.0×73.0	"
23	"	ロンドン朝	昭39	"	54.0×74.0	"
24	"	レマン湖畔	昭37	"	51.5×71.5	"
25	"	雨後の山(信州)	昭39	"	84.5×121.5	"
26	"	高 原	昭26	"	66.3×99.0	"

番号	作家名	作品名	制作年	材質・形状	寸法	受入方法
27	小堀進	漁村	昭12	水彩	64.5×92.5	寄贈
28	"	風の日の浜辺	昭10	"	52.8×65.3	"
29	"	真夏の海(太海)	昭7	"	52.8×65.3	"
30	中西利雄	外房風景	昭11	"	36.0×50.0	"
31	鶴田吾郎	憶ひ出の広安門	昭14	油彩	90.9×116.7	"
32	"	女	昭21	"	40.9×31.8	"
33	"	柚夫	昭27	"	72.7×90.9	"
34	"	木をつくる	昭20以降	"	40.9×31.8	"
35	"	富士山	昭26	"	90.9×116.7	"
36	"	朝日連峰	昭26	"	80.3×116.7	"
37	"	鷹の巣の雪山	昭29	"	95.7×153.0	"
38	"	谷川岳	昭34	"	72.7×90.7	"
39	"	説教	昭37	"	50.0×60.6	"
40	"	存在	昭40	"	72.7×90.7	"
41	"	小鳥たち	昭40	"	65.2×90.7	"
42	"	初転法輪	昭42	"	112.1×145.5	"
43	"	お山の鈴音	昭43	"	72.7×90.9	"
44	"	水温む	昭43	"	90.9×116.7	"
45	"	山神	昭43	"	90.9×72.7	"
46	"	中山競馬場	昭20以降	コンテ	30.0×52.0	"
47	"	池袋風景	明44	水彩	23.5×32.8	"
48	"	自画像	明45	コンテ	33.8×24.9	"
49	"	浮しぼり(千夕)	大8	"	33.3×47.8	"
50	"	自画像	大8	鉛筆	28.7×21.4	"
51	"	女の横顔	大9	コンテ	29.4×26.0	"
52	"	馬車屋の親爺	昭5	"	43.3×25.5	"
53	"	婦人像	昭8	パステル	52.6×33.4	"
54	"	水汲み	昭10	コンテ	36.2×53.4	"
55	"	濟州島にて	昭10	"	36.5×24.5	"
56	"	廟と老人(張家口)	昭12	コンテ淡彩	37.5×58.7	"
57	"	手紙を書く兵士	昭12	パステル	57.4×75.2	"
58	"	女子挺身隊(パラシュート工場)	昭17	コンテ	31.5×44.2	"
59	"	アンコールワットと兵隊	昭17	"	56.7×37.5	"
60	"	潮音	戦前作	"	37.4×54.6	"
61	"	差木地	"	コンテパステル	38.5×58.3	"
62	"	芋掘り	"	淡彩	56.7×77.0	"
63	"	大島	"	コンテ	38.0×54.7	"
64	"	海女	"	"	58.0×43.5	"
65	"	坑夫	"	"	55.5×38.7	"
66	"	網うつ男	"	"	54.4×35.0	"
67	"	麦打ち	"	パステル	34.0×55.3	"
68	"	河口湖の富士	"	コンテ	37.8×59.6	"
69	"	買出しの娘	昭21	パステル	72.0×53.4	"
70	"	裸婦	昭22	コンテ	54.0×38.2	"
71	"	中西悟堂氏	昭26	淡彩	49.5×33.3	"
72	"	近藤浩一路氏	昭29	コンテ	37.0×26.9	"
73	"	荻原井泉水氏	昭29	淡彩	34.0×25.2	"
74	"	秋田雨雀氏	昭29	コンテ	54.0×34.8	"



番号	作家名	作品名	制作年	材質・形状	寸法	受入方法
75	鶴田吾郎	中沢弘光氏	昭29	コンテ	33.5×24.7	寄贈
76	"	徳富蘇峰氏	昭30	淡彩	34.0×24.0	"
77	"	練習中の大交響楽団(レニングラードオーケストラ)	昭33	コンテパステル	148.0×365.5	"
78	"	十和田の宿	昭35	ペン淡彩	26.5×37.8	"
79	"	ヒマラヤ(ダージリン)	昭37	パステル	32.6×50.3	"
80	"	あくび	戦後作	淡彩	26.5×37.0	"

彫 塑

番号	作家名	作品名	制作年	材質・形状	寸法	受入方法
1	木村賢太郎	海	昭55	石彫	H=301.0 W=9 t	購入

版 画

番号	作家名	作品名	制作年	材質・形状	寸法	受入方法
1	立石春美	矢がすりの娘	昭54	リトグラフ	63.0×48.2	寄贈
2	星 襄一	星の森(大)	昭46	木版	42.0×88.0	購入
3	"	青い一列	昭51	"	37.2×74.5	"
4	"	枝繁る(赤)	昭53	"	35.0×92.0	"
5	"	枯草の風景(B)	昭53	"	31.0×51.0	"
6	"	大 樹	昭52	"	75.5×57.0	"

研究資料

番号	資 料	名	受入方法
1	木村賢太郎資料	(マジック)「海(1)」	40.0×32.0 昭54 寄贈
2	"	(マジック)「海(2)」	40.0×32.0 昭54 "
3	浅井忠資料	絵葉書	"
4	和田英作資料	"	"
5	塚本靖(他)資料	水彩画(3点)	"
6		日本帝国海外旅券	"
7		文様集成(13点……水彩画11, 鉛筆画1, ペン画1)	"
8		日本建築学会発行建築雑誌第631号抜粋	"

昭和55年度千葉県美術品取得基金購入資料一覧

番号	作家名	作品名	種別	材質・形状	制作年	寸法
1	ギスターヴ・クールベ	雪の中の小鹿	洋画	油 彩	明2頃	51.5×61.5
2	安井曾太郎	熱海附近	"	" "	昭4	65.2×53.0
3	浅井忠	フォンテンブローの森	"	水 彩	明34	35.0×24.3
4	石井柏亭	老 太 々	"	油 彩	大8	65.5×35.5
5	"	聖フランチェスコ寺院	"	" "	大13	60.0×73.0
6	"	舟に居る人	"	水 彩	大2	36.5×26.0
7	"	舞 姫	"	" "	昭33	49.0×32.0
8	"	病 児	"	" "	明38	34.0×25.5
9	中西利雄	曇り日の離宮と駅	"	" "	昭22	55.0×74.5
10	"	四人の女	"	" "	昭14	100.0×73.0
11	小堀進	逆 光	"	" "	昭49	66.2×101.2
12	"	霞 ケ 浦	"	" "	昭48	83.0×120.5
13	"	山	"	" "	昭40	85.8×123.0
14	"	南 欧 の 丘	"	" "	昭37	97.3×145.4
15	"	海 (白 浜)	"	" "	昭29	65.7×99.8
16	"	冬晴の果樹園	"	" "	昭11	52.5×65.1
		合 計		1 6 点		

95  
48  
123

## 施 設

この建物は、幾つかの建設候補地の中から、千葉港に隣接した臨海埋立地の一角に計画された。計画着手時はこの付近は訪れる人も少なく、海を通して石油基地のタンク群や工場と煙を吐き出す煙突が望める環境であった。

このような当初の環境下で、空気汚染、降下媒塵そして塩害など、建物に与える悪影響が予測されるために、材料の選択、構法、空調計画等は十分な検討がなされた。以下、主な部分について記す。

### 外壁の打込みタイル—先積ブリック構法

従来の外壁をコンクリートで表現している建物とは異なり、炝器質タイルを型枠代にしてコンクリートと一体に打ち込む構法をもちいた。

今回使用したタイルは従来の断面と異なり、コの字型の断面をしており、型枠にセットせずモルタルにて積上げられるように見込み寸法を5cmの厚味にしてある。

施工方法は、内型枠、配筋工程の次のタイルを積み5段毎に型枠のホームタイを通し、2.400mm程度まで積み上げ単管にて固定する。この2.400mmの高さは、設計段階での試作実験にて安全を確認した数値である。試作段階での支保工は、縦方向に角材を400ピッチに通し、横方向に単管を480ピッチに通し固定したが、施工時は、縦方向に単管を480ピッチに通して固定した。コンクリートの打設は、1.5m~2.0m/hの速度を目標に行ない、ポンプにて打設可能な程度までスランブを下げた。この工程を繰り返しタイル壁面を構成してゆく。

タイル面の施工時の汚れ防止には、ふのりを塗布した。タイルの目地は積み上げる工程で仕上げられ、表面に現われない目地の空隙にコンクリートのノロが滲み込んでゆき、目地からの滲透水を防ぎ満足する状態に仕上がった。

### 屋根の天然スレート

前述のような環境のもとで、勾配屋根に適し、十分にもちこたえられる材料としては耐候性鋼等が考えられたが調査の結果により天然ストートを使用した。

### 空調計画

計画当初より、良好とはいえない外部環境から美術品をいかに保護するかが、海浜に建つ美術館として、ひとつの重要なテーマだった。外気取入れは、内部に自動巻取りフィルター、ユニット型フィルター、活性炭フィルター、キャピラリーワッシャーの4種類の空気清浄フィルターを組込んだ外気処理器を通して供給

されている。

展示棟はCAV(定風量型)+VAV(可変風量型)方式により計画されている。わが国の美術館は、平常の館内利用者に対して特別展や団体展等のときに非常に利用者がふえて、発熱負荷の変動が大きくなる。VAV方式は、こういった条件に対して非常に効果的であるといえる。

管理棟は、エネルギーの省力化にも役立つVAV方式を採用し、収蔵庫は、露点再熱制御方式により二つの条件の異なる収蔵庫を2台の空調機で空調されている。

### 照明計画

展示壁面は、自然光源と人工光源とにより全体計画されている。

自然光源は展示室の高窓から取り入れられ、外部の溝型ガラスと内部の紫外線吸収のアクリル拡散板を経て壁面に達する。しかし、太陽直射光の鉛直面照度は8時から15時の間で10%の時間が80.000lx以上、30%の時間が50.000lx以上、50%の時間が25.000lx(平均)以上、90%の時間が5.000lx以上という測定値がありまた水平面照度にしても50.000lx(薄晴)から5.000lx(曇天)の範囲と非常に明るい。このように必要以上に明るい光源は、調光通路内に設けられた2板の電動スクリーン(これは、計算値により鉛直面照度60.000lx以上の条件のとき必要な枚数で、それぞれ異なった透過率を有する布を使用した)にて基準の壁面照度になるよう調光される。

計算値による透過率をもつクロスでの何回かの現場実験の結果、クロスは白地のポリエステル(透過率53.6%)と黒地のジョーゼット(透過率35%)の2枚を採用した。ここで留意すべき点は、クロスの遮光性能を良くするために、厚地の布や、コーティングされた布を使用すると壁面に色がつくことがある。壁面の照度分布の状態は、視覚的に均一な壁面が確保できた。

曇天・雨天に対しては、蛍光灯と白熱灯を補助照明として設置した。蛍光灯と白熱灯を併用したのは、演色性を高めるためである。

第1、2展示室は、すべて蛍光灯と白熱灯による人工光源で計画されている。壁面照度は、最高200lxに押えてある。

固定ケースは基準照度を180lxに設定した。照明方法は、全面アルミルーバーの天井ふとりに蛍光灯を2本並列させ、その間に白熱灯2個を配置した。

### 【設計監理者】

建築：大高建築設計事務所



構造：木村俊彦構造設計事務所

設備：科学応用冷暖研究所

備品：大高建築設計事務所

#### 【施行者】

建築：(株)竹中工務店

設備：空調＝東洋熱工業(株)，衛生＝第一管工事(株)，  
電気＝関東電気工事(株)

備品：天童木工，山口木材，佐々木ブラインド

#### 【設計期間】

基本設計：昭和46年11月～昭和47年1月

実施設計：1期展示棟＝昭和47年7月～昭和48年1月

2期管理棟＝昭和48年7月～昭和48年11月

3期県民アトリエ＝昭和53年9月～昭和54年11月

#### 【施工期間】

1期展示棟：昭和48年4月～昭和49年3月

2期管理棟：昭和50年4月～昭和51年2月

3期県民アトリエ：昭和54年3月～昭和55年2月

#### 【階数】

地下1階，地上2階，塔屋1階建

#### 【高さ】

基礎底まで：GL-5.00m，最高軒高GL+9.33，最  
高高さ：GL+15.20m

#### 【都市計画地域指定】

用途地域：準工業地域

#### 【規模・面積】

敷地面積：33,057.87㎡，建築面積：7,641.9㎡，建  
ぺい率：23.11%，延床面積：8,970.85㎡，展示棟＝  
5,194.59㎡，管理棟＝2,274.60㎡，県民アトリエ  
＝1,501.66㎡，駐車台数：101台

#### 【構造】

主体構造：鉄筋コンクリート造（プレストレスト導  
入），屋根：鉄骨造／主鋼材の種類：H型，山型，平  
鋼＝SS41および高張力鋼，PC鋼棒／コンクリ  
ートの種類：A種・普通コンクリート（基礎・地中梁  
・1階スラブ） $F_c=210\text{kg}/\text{cm}^2$ ，B種・軽量コンクリ  
ート（梁・スラブ用・地上部） $F_c=300\text{kg}/\text{cm}^2$ ，C種  
・軽量コンクリート（地上部躯体でA，B以外の梁  
・壁など） $F_c=240\text{kg}/\text{cm}^2$

#### 【外部仕上】

屋根：勾配屋根＝アスファルトルーフィング・コロ  
シート，天然スレート3枚葺，陸屋根＝アスファル  
ト防水，押えコンクリート，豆砂利打込み

外壁：珪器質タイル（先積ブリック打込工法）一部  
コンクリート打放しおよび研り仕上げに撥水剤塗布  
開口部：昭和鋼機(株)オーダーメイド自然発色サッ  
シュ，一部型鋼グラファイト処理サッシュ，旭硝子  
スーパーサンゴールド

#### 【内部仕上げ】

玄関ホール・ロビー・第7展示室：床・巾木＝自然

石（北木島御影）円盤摺および本磨，壁＝コンクリ  
ート砕り仕上げ，プラスター中塗下地塗装仕上げ，  
天井＝岩綿吸音板 天井高＝2,300 4,200～13,500  
展示室：床＝ビニールホモジニアスタイル，壁＝石  
綿珪酸カルシウム，板下地クロス張り，塗装仕上げ  
天井＝岩綿吸音板，塗装仕上げ 天井高＝3,600  
3,240 4,500～6,100

事務室：床＝ビニールホモジニアスタイルおよびビ  
ニールアスベストタイル，壁＝プラスター中塗下地  
塗装仕上げ，天井＝岩綿吸音板塗装仕上げ，天井高  
3,400

収蔵庫：床＝フローリングブロック，壁・天井＝米  
杉 天井高＝3.400 館長・副館長室・応接室：＝じ  
ゅうたん，壁＝突板練付け，天井＝岩綿吸音板 天  
井高＝2,600

講堂：床＝置敷カーペット，一部マコレフローリ  
ング，壁＝マコレ練付け，及びクロス張り，天井＝ク  
ロス張り

ホール：床＝ビニールホモジニアスタイル

廊下：壁＝プラスター中塗下地塗装仕上げ

情報資料室：天井岩綿吸音板

事務室：床＝ビニールアスベストタイル，壁＝プラ  
スター中塗下地塗装仕上げ，天井＝軟質石綿板

第1・第2アトリエ：床＝ビニールアスベストタイル，壁＝コンクリ  
ート打放し下地補修の上塗装仕上げ，天井＝軟質石綿板

研修室：床＝ビニールアスベストタイル，壁＝ク  
ロス張り，天井＝岩綿吸音板

和室：床＝玄晶石水磨き，タタミ，檜家甲板，壁＝  
京じゅうらく塗，天井：杉征ベニヤ目透シ，竿縁天井

#### 【昇降機設備】

荷物用エレベーター（三菱エレベーター）：制御方  
式＝交流2段速度歯車式，セレクトィブコレクティ  
ブ(DWA)F操作方式，規模：容量3,000kg，カゴ  
内法＝3,000×3,000×3,000，速度＝30m/min，戸閉  
型式＝電動式2板戸上下開き

#### 【空調設備】

空調方式：展示棟＝CAV（定風量型）＋VAV（可  
変風量型）方式；県民アトリエ＝各室ハンドリン  
グ方式，管理棟＝VAV方式，保管庫＝露点再熱制御  
方式

熱源：空気熱源スクリュウ熱回収ヒートポンプ方式

#### 【衛生設備】

給水：ポンプ圧送方式，引込み管径80mm

排水：汚水・雑排水合流方式系統（管径300），雨水  
系統（管径300）別，公設本管へ放流

#### 【電気設備】

受電方式：交流 3相3線式6,000V 50Hz，電灯幹  
線＝交流 単相3線式200V/100V 50Hz，分岐支線



＝单相2線式200V/100V 50Hz, 分力幹線および  
分岐支流＝交流 3相3線式200V 50Hz, 電話交  
換方式：40回線クロスバー完全共通制御分散中継方  
式, 契約容量：630Kw

給排水衛生設備工事	28,995千円
外構工事	67,705千円
ガス工事	7,881千円

**【防災設備】**

排煙方式：自然排煙, 機械排煙 (第1,2,7展示室)  
消火方式：屋外・屋内消火栓, 不燃性ガス消火設備  
ハロゲン1301 (電気室, 機械室, 収蔵庫1.2)  
自家発電：ディーゼル機関直結交流発電機, 定格出  
力100kVA

**【その他の設備】**

防犯設備：ITVカメラ設備, 防犯警報装置, 調光放  
送設備, 火災報知設備

**工期及建設経費**

**第1期工事 (展示棟)**

工期	昭和47年9月20日～昭和49年3月31日
工事費	775,967千円
本体工事	425,230千円
電気設備工事	79,663千円
空調設備工事	166,493千円

**第2期工事 (管理棟)**

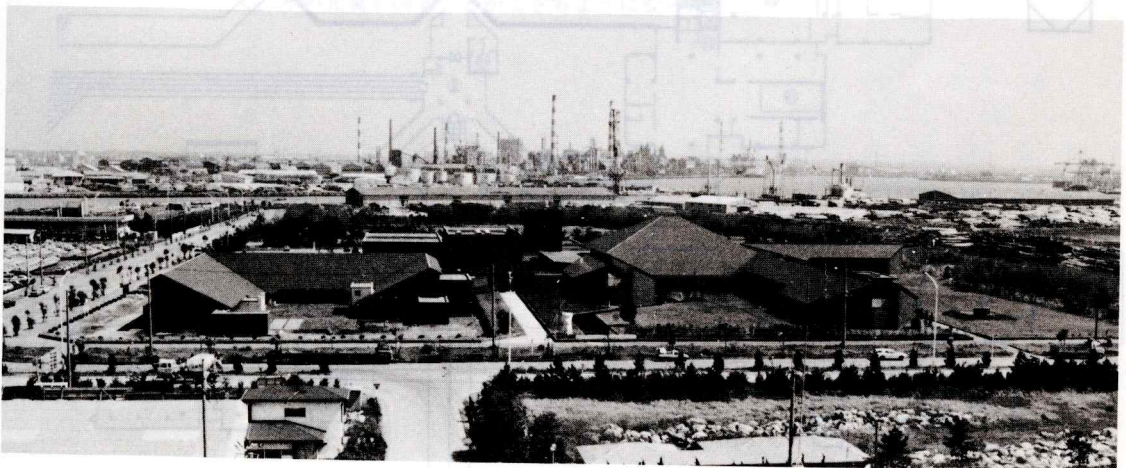
工期	昭和50年3月1日～昭和51年2月20日
工事費	453,800千円
本体工事	305,500千円
電気設備工事	30,000千円
空調設備工事	79,000千円
給排水衛生設備工事	19,514千円
外構工事	17,786千円

**第3期工事 (県民アトリエ)**

工期	昭和54年3月22日～昭和55年2月29日
工事費	368,807千円
本体工事	247,565千円
基礎杭打工事	16,542千円
空調設備工事	56,200千円
電気設備工事	35,000千円
給排水衛生設備工事	13,500千円

**展 示 棟**

玄関ホール	102.40 m <sup>2</sup>	厨 房	36.00 m <sup>2</sup>	工 作 室	31.00 m <sup>2</sup>
ク ロ ッ ク	91.80 m <sup>2</sup>	従業員控室等	17.28 m <sup>2</sup>	発 電 機 室	25.00 m <sup>2</sup>
倉 庫 A	2.70 m <sup>2</sup>	食堂ホール	61.20 m <sup>2</sup>	電 気 室	123.20 m <sup>2</sup>
"    B	2.70 m <sup>2</sup>	ロ ビ ー	335.52 m <sup>2</sup>	ポ ン プ 室	76.80 m <sup>2</sup>
第一展示室	437.76 m <sup>2</sup>	第一休憩室	23.04 m <sup>2</sup>	機 械 室	305.20 m <sup>2</sup>
" 二 "	400.32 m <sup>2</sup>	" 二 "	23.04 m <sup>2</sup>	高架水槽室	11.46 m <sup>2</sup>
" 三 "	469.08 m <sup>2</sup>	" 三 "	23.04 m <sup>2</sup>	E. V機械室	27.28 m <sup>2</sup>
" 四 "	403.20 m <sup>2</sup>	便 所 A	30.24 m <sup>2</sup>	E. V廻り	54.56 m <sup>2</sup>
" 五 "	824.19 m <sup>2</sup>	"    B	23.76 m <sup>2</sup>	ダクトスペース	35.68 m <sup>2</sup>
" 六 "	330.58 m <sup>2</sup>	身障者用便所	7.92 m <sup>2</sup>	廊 下 等	123.48 m <sup>2</sup>
" 七 "	566.56 m <sup>2</sup>	コントロール室	20.16 m <sup>2</sup>		
食 堂	119.52 m <sup>2</sup>	フィルター室	28.92 m <sup>2</sup>	<b>合 計</b>	<b>5,194.59 m<sup>2</sup></b>





管 理 棟

(1階)

第2会議室	22.62	m <sup>2</sup>
更衣室	14.83	m <sup>2</sup>
医務室	21.18	m <sup>2</sup>
文書庫	22.02	m <sup>2</sup>
警備員室	43.59	m <sup>2</sup>
第一会議室	20.15	m <sup>2</sup>
倉庫	7.19	m <sup>2</sup>
湯沸室	5.19	m <sup>2</sup>
便所	24.54	m <sup>2</sup>
宿直室	34.20	m <sup>2</sup>
物置	9.92	m <sup>2</sup>
用務員室	31.83	m <sup>2</sup>
審査室・資料準備室・荷解室	520.68	m <sup>2</sup>
消毒室	31.79	m <sup>2</sup>
資料倉庫	124.25	m <sup>2</sup>
荷解梱包保管室	52.67	m <sup>2</sup>
荷扱人控室	21.94	m <sup>2</sup>
機械室	51.74	m <sup>2</sup>
廊下等	123.52	m <sup>2</sup>
小計	1,183.85	m <sup>2</sup>

(2階)

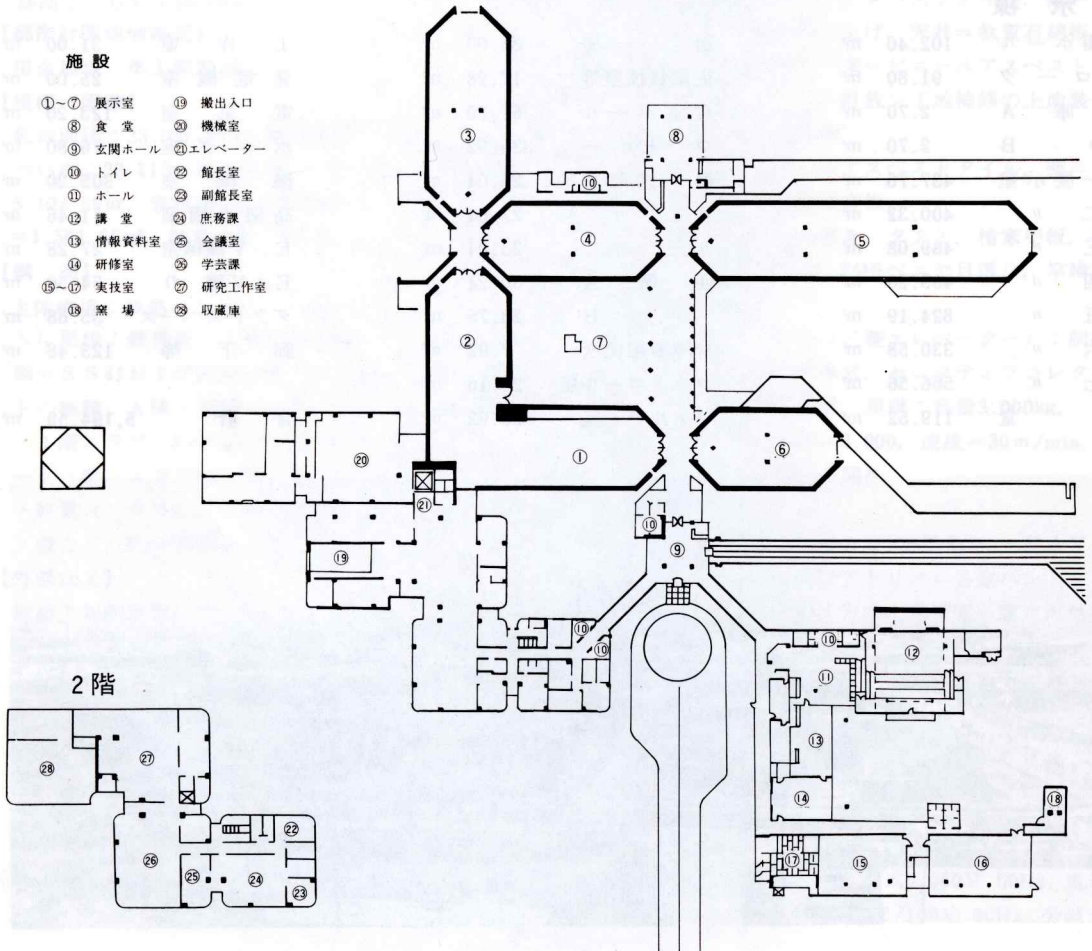
館長室	33.27	m <sup>2</sup>
副館長室	23.42	m <sup>2</sup>
第一応接室	14.67	m <sup>2</sup>
第二応接室	14.55	m <sup>2</sup>
庶務課室	112.34	m <sup>2</sup>
会議室	43.84	m <sup>2</sup>
学芸課室	195.32	m <sup>2</sup>
学芸相談室	23.91	m <sup>2</sup>
研究工作室	216.49	m <sup>2</sup>
写真スタジオ	54.30	m <sup>2</sup>
器材室	6.74	m <sup>2</sup>
暗室	12.19	m <sup>2</sup>
第一収蔵庫	184.40	m <sup>2</sup>
〃二〃	42.81	m <sup>2</sup>
E.V前室	16.39	m <sup>2</sup>
便所	21.50	m <sup>2</sup>
湯沸室A	3.24	m <sup>2</sup>
〃B	6.87	m <sup>2</sup>
廊下等	60.94	m <sup>2</sup>
ダクトスペース		
その他	3.56	m <sup>2</sup>
小計	1,090.75	m <sup>2</sup>
合計	2,274.60	m <sup>2</sup>

県民アトリエ

1F機械室	25.92	m <sup>2</sup>
講堂倉庫	8.64	m <sup>2</sup>
講堂	259.24	m <sup>2</sup>
コントロール室	30.33	m <sup>2</sup>
ホール側便所	29.97	m <sup>2</sup>
情報資料室	172.77	m <sup>2</sup>
同上倉庫	4.70	m <sup>2</sup>
事務室	22.76	m <sup>2</sup>
研修室	74.70	m <sup>2</sup>
同上倉庫	4.23	m <sup>2</sup>
第1アトリエ	155.70	m <sup>2</sup>
第2アトリエ	184.31	m <sup>2</sup>
第3アトリエ	95.47	m <sup>2</sup>
アトリエ側便所	20.77	m <sup>2</sup>
荷解室	25.65	m <sup>2</sup>
窯場	27.17	m <sup>2</sup>
同上倉庫	6.66	m <sup>2</sup>
ホールその他	352.67	m <sup>2</sup>
小計	1,501.66	m <sup>2</sup>
合計	8,970.85	m <sup>2</sup>

施設

- ①~⑦ 展示室
- ⑧ 食堂
- ⑨ 玄関ホール
- ⑩ トイレ
- ⑪ ホール
- ⑫ 講堂
- ⑬ 情報資料室
- ⑭ 研修室
- ⑮~⑰ 実技室
- ⑱ 窯場
- ⑲ 搬出入口
- ⑳ 機械室
- ㉑ エレベーター
- ㉒ 館長室
- ㉓ 副館長室
- ㉔ 庶務課
- ㉕ 会議室
- ㉖ 学芸課
- ㉗ 研究工作室
- ㉘ 収蔵庫



# 事業報告

## 1 “みる”事業について

特別展として、年度当初に「近代日本美術の巨匠展」を行ない、日本芸術院が所蔵する巨匠たちの作品を一堂に展示紹介した。9月には、「竹久夢二展」を開催し、明治末期から昭和初期にかけて、独特の美の世界を築きあげた夢二の業績をできるだけ多く集め、夢二についての新たな認識とその芸術の再評価を目指した。また、1月には、「高村光太郎、その芸術」展としてわが国の彫刻史に「近代性」を導入した人として、重要な位置を占めている光太郎の多方面にわたる活動を中心に、その作品及び資料を展示紹介した。

企画展では、房総の美術家シリーズ(10)として、国際的にも評価の高い「現代版画三人展」を、更に、カナダ大使館との共催による「現代カナダ版画家10人展」を開催した。

常設展は、年間を2期にわけ、新収蔵作品を中心に展示した。また、千葉県移動美術館は、東金市と佐原市で開設し、地域の人々に鑑賞の機会を供した。

## 2 “かたる・つくる”事業について

“かたる”事業として、講演会を3回、美術を語る会を6回開催した。また、夏季大学は、「日本近代洋画史の流れ」をテーマに行った。

一方、“つくる”事業としては、県民アトリエの完成により、「デッサン入門」「洋画基礎」「洋画研修」「彫塑入門」「てん刻入門」「七宝焼入門」「陶芸入門」「書芸入門」の各実技講座を開講することができた。

## 3 資料収集について

美術資料は、収集方針に基いて、数多くの作品を収蔵することができた。特に、本年度から、美術品取得基金条例を活用して、その充実を図ることができるようになった。





# 常設展

## 常設展 収蔵作品展

会 期 昭和55年 3月27日～9月7日

展示点数 52点

入場者数 48,496人

常設展は、本館の収蔵作品を広く公開することになっている。特に本館では、これまで、近代以降の、房総にゆかりある美術家の調査・研究をすすめ、その作品の収蔵を図ってきた。すでにこれまで開催した常設展の中で、これら美術家の紹介と顕彰を行ってきたが、引き続きこれら美術家を中心にしながら、新収蔵作品を加え、日本画・洋画・彫塑・工芸・書・版画にわたる作品を一堂に展観することにした。

### 出品目録

作家名	作品名	作家名	作品名
<b>&lt;洋画&gt;</b>		<b>&lt;書&gt;</b>	
浅井 忠	農 婦	大石 隆子	待 君
松岡 寿	森 と 小 川	鈴木 方鶴	万 昌
都鳥 英喜	巴里 郊外 サンクール	浅見 錦龍	九 十 九 里
石井 柏亭	晩 春 行 楽 図	<b>&lt;日本画&gt;</b>	
"	信 州 風 景	東 山 魁 夷	門
霜鳥 之彦	ロ シ ア の 女 後	"	春 秋 雪 深
黒田 重太郎	浴 女 と 小 犬	"	秋 夜 深
"	モ ン マ ル ト ル	渡 辺 学	夜 深
原 勝郎	丘 上 の 鐘 楼	岩崎 巴人	波 濤 岩 礁 図
大久保 作次郎	房 州 伊 豫 ヶ 岳	後藤 純男	山 門 雨 後
鱸 利彦	岩 和 田 海 岸	<b>&lt;彫塑&gt;</b>	
林 俊衛	鴨 図 岬	小倉 惣次郎	伊 藤 博 文 像
椿 貞雄	冬 の 犬 吠	"	明 治 天 皇 像
三田 康	裸 婦 突	藤野 天光	希 倚 望 像
板倉 鼎	医 大 尖 煙	大須賀 力	詩 人 の 肖 像
無縁寺 心澄	絵 馬 に よ る	郡 司 和 男	" 天 使 像
篠崎 輝夫	D U M M Y	"	天 使 像
石井 武夫	I N S E C T S	鈴木 実	存 在 す る 私
舘 嘸		<b>&lt;工芸&gt;</b>	
<b>&lt;版画&gt;</b>		香取 秀真	鉄 瓶
永瀬 義郎	も の 想 う 天 使	"	鉄 瓶
"	孔 雀 の 女 王	"	鳩 香 茶 釜
"	つる 草 の ギ タ ー	香取 正彦	金 銅 魚 籃 観 音
浜口 陽三	ピ ー マ ン の あ る 静 物	"	臘 銀 玉 錯 花 瓶
"	赤い鉢と黒いさくらんぼ		
"	26 の さ く ら ん ぼ		
星 襄一	星 座 二 番		
"	星 座 No. 42		
"	夜 明 け		
池田 満寿夫	飾 り 窓 の 中		
"	ス フ ィ ン ク ス		
"	夜 の 旅		

印刷物 目録 B5 2折 8,000枚



# 常設 収蔵作品展

会 期 昭和55年12月5日～昭和56年3月31日

展示点数 64点

入場者数 47,935人

本館では、近代以降の房総にゆかりある美術家の調査・研究をすすめ、その作品の収蔵を図っている。これまで開催した常設展の中で、収蔵作品を広く公開してこれら美術家の紹介と顕彰を行ってきた。本年度第2期の常設展では、引き続き房総にゆかりある美術家を中心にしながら、新収蔵品を加え、日本画、洋画、版画、書、彫塑、工芸にわたる作品を一堂に展覧することにした。

## 出 品 目 録

作家名	作品名	作家名	作品名
<b>&lt;洋画&gt;</b>		<b>&lt;版画&gt;</b>	
浅井 忠	老 母 像	浜口 陽三	パリの屋根
都鳥 英喜	巴里郊外サンクール	"	テーブル掛けとさくらんぼ
"	八 瀬 の 秋	"	さくらんぼと青い鉢
石井 柏亭	晩 春 行 楽 図	"	8 つ の く る み
霜鳥 之彦	緑のスウェーター	瑛 九	ポ エ ム
澤部 清五郎	パ リ 風 景	"	音 楽
間部 時雄	田 園 風 景	"	鳥 の 踊 り
黒田 重太郎	女 と 小 犬	"	円
原 勝 郎	森 A	星 襄一	赤い地平線
石橋 武治	裸 婦	"	王 の 樹
椿 貞雄	秋 果 図	"	陽 (林)
板倉 鼎	金 魚 と 雲	"	野 の 木 A
和田 清	秋 き た る 梓 川	深沢 幸雄	憂 愁
山本 不二夫	ハイデルベルク風景	"	猫
桜田 精一	冬 の 並 木 道	"	楽しそうな死者
高橋 規矩次郎	漁 船	"	月 の 悲 し み
緩 嘸	B I R D	池田 満寿夫	中 間
溝口 七生	高 原 の 樹 々	"	ハートの位置
久保木 彦	鉄 路 の 信 号 ボ ッ ク ス	"	ウエルカム B
<b>&lt;日本画&gt;</b>		"	白 い 誘 惑
富取 風堂	群 魚	<b>&lt;工芸&gt;</b>	
東山 魁夷	春 雪	香取 秀真	鳳 凰 文 様 花 瓶
秋葉 長生	西 の 京	宮之原 謙	象 嵌 磁 鉢
小野 具定	遠 く な っ た 海	土肥 刀泉	釉 彩 両 耳 花 瓶
大浦 掬水	獅 子 舞	信田 洋	伸 び ゆ く 湾
渡辺 学	川 口	山本 正年	瑞 光
関 主税	滝	鈴木 治平	条 紋 金 彩 花 瓶 体
加倉井 和夫	穀 機 野	土 肥 満	向 い 合 う 単 体
松尾 敏男	原	<b>&lt;彫塑&gt;</b>	
<b>&lt;書&gt;</b>		綿引 司郎	遙
浅見 喜舟	崔 子 玉 座 右 銘	鈴木 章	七 面 鳥
小暮 青風	天 鷲	鈴木 啓子	フ ィ ー リ ン グ '69
高沢 南総	桃 李 争 妍	本 田 悦 久	秋 茜
種谷 扇舟	故 郷 之 山 河		
金子 聴松	視 思 明		

印刷物 目録 B5 2折 5,000枚

# 特別展

—日本芸術院所蔵作品による—

## 近代日本美術の巨匠展

会 期 昭和55年 4月19日～5月18日  
 展示点数 108点  
 入場者数 7,897人

本展は、日本芸術院のご協力により、同院が所蔵する日本画、洋画、工芸、書の各部門にわたる巨匠たちの作品 108点を一堂に展示し、紹介した。

日本芸術院は、大正8年帝国美術院として発足し、昭和12年には文芸・芸能を加えた帝国芸術院となり、戦後日本芸術院と改称し、今日に至っている。この間、日本芸術院賞の受賞作品を主に、故川合玉堂氏の資金により買上げ、文部省に寄贈された作品並びに日本芸術院会員の寄贈になる作品等により、多くの優作が収蔵されてきた。これら日本芸術院所蔵の作品は、まさに近代日本美術の歩みをその時々代表してきたものであり、日本美術への理解を深める上で、本展は恰好の機会であった。

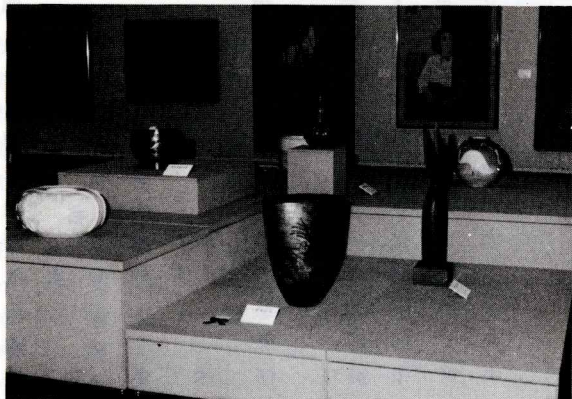


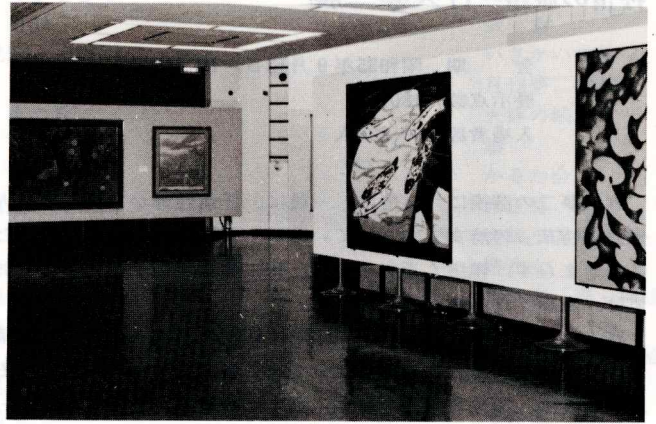
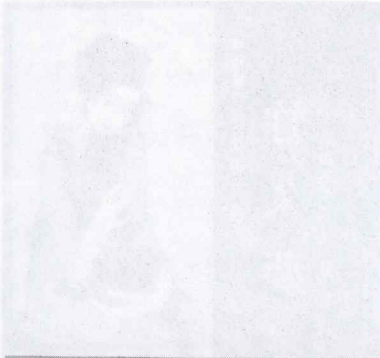
### 出品目録

作家名	作品名	作家名	作品名
<b>&lt;日本画&gt;</b>		<b>&lt;洋画&gt;</b>	
松岡映丘	右大臣実朝	麻田辨自	潮彩
川合玉堂	宿窈	濱田貞観	シャム猫と青衣の
荒木十畝	竊炭	中山本倉丘	たそが幽
結城素明	炭牛	上村松篁	樹下
西山翠嶂	牛	佐藤太清	風
小室翠雲	白乾	宇田荻邨	杜鵑 (ほととぎす)
西村五雲	麦	三谷十糸子	高原の朝
竹内栖鳳	雄飛	大山忠作	五百羅漢
児玉希望	うす陽さす春の古城	猪原大華	清春の流
堂本尚郎	薦のある白い	川本末雄	松
松林桂月	香	浦田正夫	
吉田登毅	浄窓	<b>&lt;洋画&gt;</b>	
中村岳陵	溪	黒田重太郎	湖畔の朝
矢野橋村	光	鬼頭鍋三郎	バレリ
東山魁夷	仔	小山敬三	婦人の像
山口華甫	虹	太田喜二郎	雪晴れの貯
森白邨	銀	木下義謙	みすずの池
池田遙辰		大沢海蔵	室静
高山春江		耳野卯三郎	静
西山英雄		中野和高	植木屋 T
		砂伊之助	潮



作家名			作品名			作家名			作品名		
服部 亮 英	杏室 強 静 赤 黄 ひ	花 内 東 か ブ ラ ウ い と	村 人 風 卓 ス 服 り 壁	叶 岸 高 浅 北 般 海 吉 佐	光 景 節 隆 塔 侑 建 大 猛	夫 春 郎 三 郎 弘 夫 眉 夫	銅 湖 化	面 の 石 爽	壺 影 譜		
木下 孝 宣 三 斗 二 平 子 一 之 章 二 雄 策 進 茂 也 誠 夫 三 郎 永	桑 室 強 静 赤 黄 ひ	花 内 東 か ブ ラ ウ い と	嶽 達 橋 秋 能 服 色 街 び 光	赤 炭 村 山 安 佐 森 平 殿 松 龜 内 平 日 青 金 鈴 田 桑 金 広 宮 木 上	庭 木 島 平 空 豪 香 邑 田 直 堂 雲 往 鳳 雨 亭 軒 堂 舟 象 仙 逕 石 山	杜 甫 詩	季 読 翁 所 住 か 酬 間 柳	樂 (秋 冬) 嘆 生 其 心 し 詩 題 春 詩 夜 詠 潮 首 水 節 抱 首 和 覽 詩 歌 珠 古			
井 有 中 江 森 西 島 佐 吉 島 中 小 森 高 高 野 岡 伊	桑 室 強 静 赤 黄 ひ	花 内 東 か ブ ラ ウ い と	瓶 掛 壺 風 瓶 鉢 瓶 器 壺 宵 瓶 女	羽 雲 南 三 正 聖 祐 翠 華 藍 清 鶴 孤 五 杉 鷗 翠 塊 笹 心 雲 竹 知 信	杜 甫 詩	季 読 翁 所 住 か 酬 間 柳	樂 (秋 冬) 嘆 生 其 心 し 詩 題 春 詩 夜 詠 潮 首 水 節 抱 首 和 覽 詩 歌 珠 古				
中 江 森 西 島 佐 吉 島 中 小 森 高 高 野 岡 伊	桑 室 強 静 赤 黄 ひ	花 内 東 か ブ ラ ウ い と	瓶 掛 壺 風 瓶 鉢 瓶 器 壺 宵 瓶 女	羽 雲 南 三 正 聖 祐 翠 華 藍 清 鶴 孤 五 杉 鷗 翠 塊 笹 心 雲 竹 知 信	杜 甫 詩	季 読 翁 所 住 か 酬 間 柳	樂 (秋 冬) 嘆 生 其 心 し 詩 題 春 詩 夜 詠 潮 首 水 節 抱 首 和 覽 詩 歌 珠 古				
松 中 内 岸 米 松 小 清 三 西 川 宮 之 辻	桑 室 強 静 赤 黄 ひ	花 内 東 か ブ ラ ウ い と	瓶 掛 壺 風 瓶 鉢 瓶 器 壺 宵 瓶 女	羽 雲 南 三 正 聖 祐 翠 華 藍 清 鶴 孤 五 杉 鷗 翠 塊 笹 心 雲 竹 知 信	杜 甫 詩	季 読 翁 所 住 か 酬 間 柳	樂 (秋 冬) 嘆 生 其 心 し 詩 題 春 詩 夜 詠 潮 首 水 節 抱 首 和 覽 詩 歌 珠 古				
松 中 内 岸 米 松 小 清 三 西 川 宮 之 辻	桑 室 強 静 赤 黄 ひ	花 内 東 か ブ ラ ウ い と	瓶 掛 壺 風 瓶 鉢 瓶 器 壺 宵 瓶 女	羽 雲 南 三 正 聖 祐 翠 華 藍 清 鶴 孤 五 杉 鷗 翠 塊 笹 心 雲 竹 知 信	杜 甫 詩	季 読 翁 所 住 か 酬 間 柳	樂 (秋 冬) 嘆 生 其 心 し 詩 題 春 詩 夜 詠 潮 首 水 節 抱 首 和 覽 詩 歌 珠 古				
松 中 内 岸 米 松 小 清 三 西 川 宮 之 辻	桑 室 強 静 赤 黄 ひ	花 内 東 か ブ ラ ウ い と	瓶 掛 壺 風 瓶 鉢 瓶 器 壺 宵 瓶 女	羽 雲 南 三 正 聖 祐 翠 華 藍 清 鶴 孤 五 杉 鷗 翠 塊 笹 心 雲 竹 知 信	杜 甫 詩	季 読 翁 所 住 か 酬 間 柳	樂 (秋 冬) 嘆 生 其 心 し 詩 題 春 詩 夜 詠 潮 首 水 節 抱 首 和 覽 詩 歌 珠 古				
松 中 内 岸 米 松 小 清 三 西 川 宮 之 辻	桑 室 強 静 赤 黄 ひ	花 内 東 か ブ ラ ウ い と	瓶 掛 壺 風 瓶 鉢 瓶 器 壺 宵 瓶 女	羽 雲 南 三 正 聖 祐 翠 華 藍 清 鶴 孤 五 杉 鷗 翠 塊 笹 心 雲 竹 知 信	杜 甫 詩	季 読 翁 所 住 か 酬 間 柳	樂 (秋 冬) 嘆 生 其 心 し 詩 題 春 詩 夜 詠 潮 首 水 節 抱 首 和 覽 詩 歌 珠 古				





講演会 4月26日「近代美術の原風景」田中 穰氏  
 美術を語る会 5月17日「私の絵画展」松尾敏男氏  
 印刷物 図録 24.0cm×25.0cm 900部  
 ポスター 73.0cm×51.5cm 1,000部  
 チラシ(兼・目録) B5 2折 10,000部



## 抒情の旅路 竹久夢二展

会 期 昭和55年9月13日～10月15日

展示点数 180点

入場者数 27,278人

竹久夢二の芸術については、一般に、抒情性豊かな夢二式美人画や、「宵待草」の詩文で知られているが、夢二の創作活動はそれだけにとどまらず、幅広く多彩であり、特に商業美術などの分野においては、先駆的な功績を残している。

夢二は、早稲田実業専攻科在学中に新聞や雑誌へのコマ絵投稿で世に出、「夢二画集」の刊行に至ってその名声を不動のものとする。以来、装画・挿絵・図案・詩文、更に、日本画・油絵・水彩画・版画など、多くの分野にその才能を発揮し、独特の美の世界を築きあげた。

近年、その芸術性が新たに見直され、再評価を受けている。また夢二は「宵待草」に代表されるように、千葉県にゆかりの深い画家であり詩人である。

この度、夢二会の御協力を得て、多面にわたる夢二の業績を一堂に集め、夢二の歩んだ抒情の旅路を探ることにした。



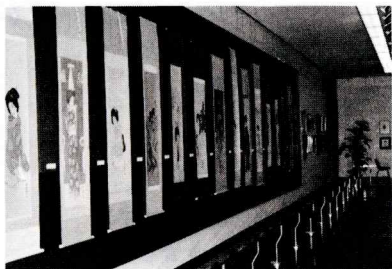
### 出品目録

フーちゃん	朝 水	人形つかい
内 儀	舞のひまに	海ぞい
枯草車	祇園の桜	時雨の炬燵
初 秋	美人夏の鴨川	春江垂釣
結願の日	壺屋の夏	秋の夜
柿	室之津	夕 涼
たびの女	待つ人	桃源境
白木蓮と乙女	醍醐の居	樹下低唱
盆燈籠	室之津懐古	七 夕
江戸呉服橋之図	舞 姫	長安美人
君ゆえに	海辺風景	秋
ギヤマン問屋の夏	黒船屋	さのや(月下美人)
魚つり	灯ともし頃・秋の丘	七夕(屏風)
カフェーの女	春より秋へ	早春第一枝
サーカスの女	ふるさと	こたつと女
夜会の花	桐下別離(屏風)	柳橋夜曲
山 水	西方浄土	洛北早春
サーカスの女	憩	筑波山図
炬燵(屏風)	からふねや	たもとゆたかに立ちしかど
一力(屏風)	山の茶亭	時雨るるや(松)
紀の国屋	修道尼	北しぐれ
和歌之浦	由良之助	運命を占うむすめ
果物籠を抱えた女	ほたる	泣黒子
思出の小春	稲荷山	紅梅や
加茂川	玫瑰露	水底の石
まぼろしの女	江畔秋景	花満径

亀井戸  
 自画像  
 あし音を  
 晩春感傷（屏風）  
 春の夜（屏風）  
 庭石  
 南枝早春・立春大吉  
 石けりの（通草）  
 泣くことを（柿二つ）  
 五月の朝  
 日本の雨  
 トンボとり  
 イメージ（爪を剪る女）  
 加茂川  
 三味線  
 更衣  
 桜湯  
 切れた糸なら  
 夜の雨  
 コーヒーと女  
 朝寒  
 砂丘  
 炬燵  
 星まつり  
**油絵**  
 初恋  
 丘の上の少女  
 青山河（屏風）  
**版画**  
 あきつ  
 得度の日  
 小春  
 治兵衛  
 梅川忠兵衛  
 文楽人形  
 港屋絵草紙店

風景画 ちょうちん  
 風景画 川岸  
 一座の花形  
 紙治  
 春の宵・夜の歌  
 裸婦  
 宝舟  
 お高祖頭巾  
 安来節  
 黒い帯の女  
 黒猫を抱く女  
 雪の夜の伝説  
**図案**  
 半襟図案  
 浴衣図案  
 千代紙図案  
 祝儀袋  
 その他  
**装画・装幀類**  
 夢二著書  
 夢二装幀本  
 児童画  
 新小唄集  
 セノオ楽譜表紙絵  
 婦人グラフ装画・挿絵  
 中山晋平作曲集表紙絵  
**装画・装幀類原画**  
 揺籃（肉筆本）  
**BROKEN MILL AND BROKEN HEART**  
 富士登山  
 百合の花  
 リングの木  
 シラミの宿  
 包みを抱いた娘  
 犬吠埼にて  
 月見

縫う女  
 芸者  
 いさかいの後  
 月刊夢二絵葉書  
 火鉢の娘  
 娘  
 かるた会  
 お正月  
 童謡小曲蛙之図  
 椿乙女  
 童話劇「春」挿絵  
 震災スケッチ  
 セノオ楽譜表紙絵  
 芸者と紫煙  
**その他**  
 宵待草  
 黒猫  
 扇をもつ舞妓  
 自画像  
 舟泊り  
 女 春から冬へ  
 女の四季  
 高島田の女  
 福島セレナーデ  
 象潟行  
 ポスター  
**YUME 看板**  
 うちわ絵  
 みなとや作品  
 メニュー  
 夢二手紙  
 スケッチブック  
 落款用印判  
 双耳花瓶  
 夢二遺愛品  
 夢二関係資料写真



**講演会** 9月15日「夢二の魅力」細野正信氏  
**美術を語る会** 9月27日「夢二の世界を語る」夢二会  
**印刷物** 図録 26.0cm×18.2cm 1,000部  
 ポスター 72.5cm×51.5cm 2,000部  
 チラシ（兼・目録） B5 30,000部



# 高村光太郎、その芸術

会 期 昭和56年1月6日～2月6日

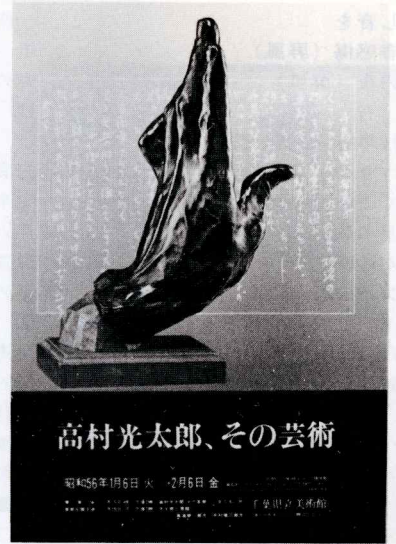
展示点数 121点

入場者数 14,970人

彫刻家高村光太郎は、荻原守衛（碌山）とともに、我が国の彫刻史に“近代性”を導入した人として、重要な位置を占めている。しかし、光太郎の活動は、彫刻にとどまらず多方面にわたっていることは、世に知られるところである。

この展覧会では、光太郎の生涯を通じ、その芸術を彫刻・書・文学・評論の各方面から回顧し、同時に彼の芸術を生み出した土壌というべき父の光雲・弟の豊周・妻の智恵子の芸術をも展示した。

さらに、千葉県で始めて開催するに当たり、房総ゆかりの水野葉舟・柳敬助・宮崎丈二との交流をも考えてみた。



## 出品目録

### 彫刻

- 紅葉と宝珠
- 羅漢
- 獅子吼
- 薄命児男子頭部
- 虎の首
- 光雲の首
- 裸婦坐像
- 手
- 腕
- ピアノを弾く手
- ピポクラテス胸像
- 鯨
- 老人の首
- 大倉喜八郎の首
- 白文鳥
- 黒田清輝胸像
- 成瀬仁蔵胸像
- 種まく人
- 嘉納治五郎像
- 光雲一周忌記念胸像
- 日本水先人協会記念碑
- 野兎の首
- 手—十和田裸婦像のための—
- 十和田裸婦像（小型）
- ” （中型）
- ” （原型）
- 大町桂月像
- 倉田雲平胸像

3  
4  
8  
36  
120

### 絵画

- 羅漢 1
  - ” 2
  - 風景
  - 木立と山（上高地風景）
  - 関如来像
  - 佐藤春夫像
  - 静物
  - 静物
  - 水野勝興像
  - 水野実枝像
  - 風景
  - スケッチ・ブック 1
  - ” 2
  - ” 3
  - ” 4
  - ” 5
  - ” 6
- ### 書
- 俳句「病中吟」
  - 短歌「来なくば」
  - 短歌「己が心……」
  - 短歌「松庵寺にて」
  - 詩「リンゴの詩」
  - 語「金剛心」
  - 語「顕真美」
  - 短歌「この山に」
  - 語「正直親切」
  - 詩「いくらまわされても」

- 語「梵音海潮音」
  - 語「天人充滿」
  - 語「不垢不淨」
  - 短歌「吾山に……」
  - 語「甘酸是人生」
  - 詩「醉中吟」
  - 語「不可避」
  - 語「花のさくのは……」
  - 語「此珠無價数」
- ### 詩稿

- 「雨にうたるるカテドラル」
- 「樹下の二人」
- 「あなたはだんだんきれいになる」
- 「ぼろぼろな駝鳥」
- 「同棲同類」
- 「刃物を研ぐ人」
- 「似顔」
- 「風にのる智恵子」
- 「千鳥と遊ぶ智恵子」
- 「値ひがたき智恵子」
- 「レモン哀歌」
- 「蟬を彫る」
- 「荒涼たる帰宅」
- 「必死の時」
- 「独居自炊」
- 「暗愚小伝」
- 「智恵子抄その後」
- 「人間拒否の上に立つ」
- 「十和田湖畔の裸婦に与ふ」

「生命の大河」

周辺作家作品

高村 光雲  
 老猿  
 蘭陵王  
 聖徳太子  
 高村 豊周  
 朧銀花入雨  
 朱銅蕪形花入  
 朧銀花入ずんど  
 高村（長沼）智恵子  
 樺樹  
 紙絵「イチゴ」  
 紙絵「アジ」  
 高村 さく  
 光太郎八歳像

高村光太郎・智恵子  
 般若心経折本  
 柳 敬助  
 裸婦  
 雨の夕暮（雑司谷）  
 風景（生家）  
 乗鞍  
 スケッチ・ブック 1  
 " 2  
 " 3  
 宮崎 丈二  
 風景  
 自画像  
 風景（小笠原母島にて）  
 水野 葉舟  
 歌「雲の上にかみなりひびき……」

歌「信州のふきを……」

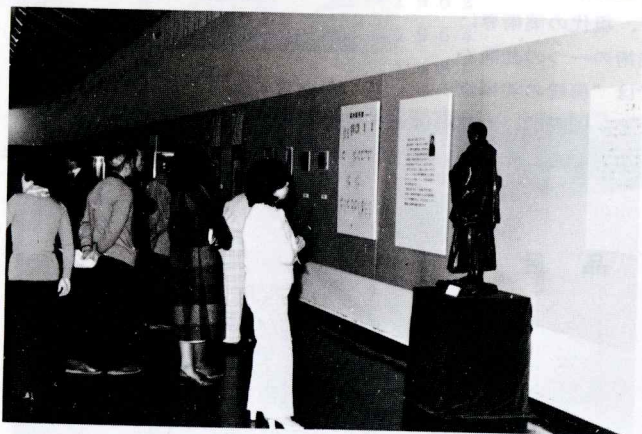
短冊集

歌「春」

色紙

資料

光太郎絵はがき（葉舟宛）  
 智恵子書簡（長沼尚親宛）  
 （柳八重宛）  
 光太郎書簡（敬助宛）  
 （八重宛）  
 智恵子書簡（長沼せん子宛）  
 光太郎はがき（丈二宛）  
 拓（三里塚「春駒」）  
 （九十九里「千鳥と遊ぶ・智恵子」）  
 琅玕洞文書（諸入費記）  
 （仕入簿）



講演会

1月15日「高村光太郎，その芸術」北川太一氏

美術を語る会

1月25日「光太郎と房絵」鳥海宗一郎氏，中村傳三郎氏

印刷物

図録	20.7cm×14.5cm	1,000部
ポスター	73.0cm×51.5cm	1,500枚
チラシ	B 5	20,000枚



# 企画展

—房総の美術家シリーズ10—

## 現代版画三人展

会 期 昭和55年 7月25日～8月24日

展示点数 77点

入場者数 9,105人

明治以後、洋画、日本画の流れにおされて不当に軽視され、独自の道を歩み続けなければならなかった版画は、自画・他刻・他摺、自画・自刻・自摺等特殊な造形表現により、その個性的な性格を生かしながら地道にその普及向上を図ってきた。

近年にみられる版画界の活況は、第2次世界大戦後、わが国の美術界が広く国際美術展に参加し、多くの受賞者を輩出して、国際的にも高い評価を得てからのことである。こうして、現代の美術界に確実な位置を得た版画に注目することは、現代美術の一つの動向を知るうえで意義あることと思う。そこで、本展では“房総の美術家シリーズ”の一環として「現代版画三人展」を企画した。展示した作家は、国内はむろんのこと、国際的にも高い評価を受け、房総にも非常にゆかりの深い星 襄一、浜口陽三、深沢幸雄の3氏に特に焦点をあてて、その鋭い感受性をとおしてとらえた美の世界を堪能していただくものである。

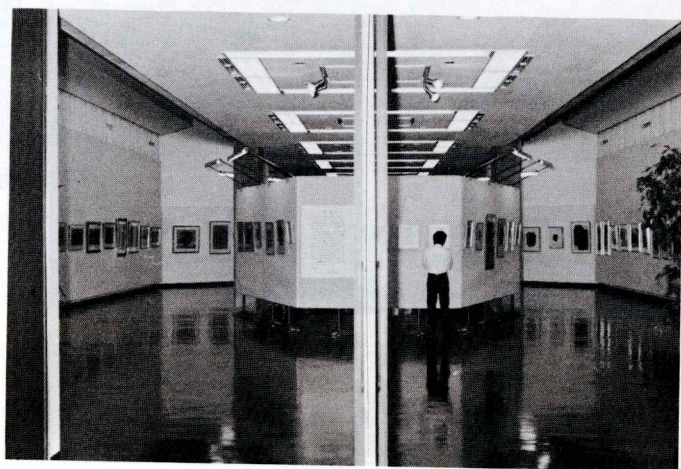


### 出品目録

作 品 名	制 作 年	作 品 名	制 作 年
星 襄一 (ほしじょういち)	1913～1978	野 の 木 A	1978
童 女	1958	大 樹 早 春 (版木)	1977
水	1959	浜口陽三 (はまぐちようぞう)	1909～
雪 の 中 で K	1960	草 花	1952
雪 の 玉 A	1964	う さ ぎ	1955
刺 青 B	1964	し た び ら め	1956
森 に 棲 む 月	1970	パ リ の 屋 根	1956
銀 河 ラ ブ ソ デ ィ	1970	う い き よ う	1958
風 景 A 一星月夜一	1970	緑 の ぶ ど う	1958
白 い 林	1971	魚 と さ く ら ん ぼ	1958
赤 い 木	1971	び ん と く る み	1959
星 の 森	1971	て ん と う 虫	1960
赤 い 地 平 線	1972	ト リ コ ッ ト	1962
朝	1973	赤 い パ イ プ	1971
木 の 風 景 A	1973	テ ー ブ ル 掛 け と さ く ら ん ぼ	1971
幹 と 枝	1973	く る み	1971
三 本 の 木 と 赤 い 空	1974	び ん と さ く ら ん ぼ	1971
大 樹	1974	赤 い 鉢	1971
王 の 樹	1976	ブ ラ ジ ル の 太 陽	1971
青 い 一 列	1976	て ん と う 虫	1971
大 樹 早 春	1977	1 9 0 と 1 匹	1975
陽 (林)	1978	2 匹 の て ん と う 虫	1975

作品名	制作年
寺のレモン	1976
さくらんぼと青い鉢	1976
8つのくるみ	1977
二匹の蝶	1977
貝	1977
深沢幸雄 (ふかざわゆきお) 1924~	
ブルネット・ラティニ	1957
分裂の悔恨	1957
転位	1958
族の長	1958
この眠り	1959
假面	1959
傷痕の響	1960
暗夜飛天	1960
生の波動	1961
堅いとりで	1962
刻まれた愛	1964
古い楽譜 (記号)	1965

作品名	制作年
伝説	1965
渦	1966
赤い假面	1967
扉と人	1968
黎明のヴィナス	1971
奈落	1971
遠い人	1971
星の門	1972
飴色の陽	1975
凍れる歩廊	1978
地母神	1978
りんごの中の夜	1978
この遙かな遠い道	1979
湾頭に開く花	1979
大地に画く	1979
花を生む女	1979
少年	1980
二つの地平線	1980



印刷物 ポスター 51.5cm×36.5cm  
 1,000枚  
 チラシ (兼・目録) B5  
 10,000枚



# 現代カナダ版画家10人展

会 期 昭和56年1月13日～1月25日

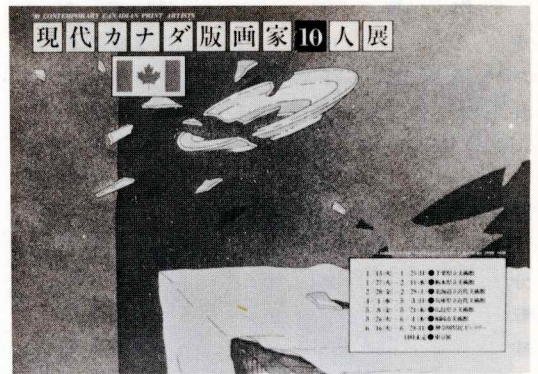
展示点数 48点

入場者数 6,290人

現在、カナダでは版画がもっとも人気のある美術といわれるほど、かつてない活況を呈している。

これは、版画の技術が多様な表現の可能性をもっており、プロセスの妙味、創造性、主観性が広大な国土の上に、壮大な自然と、多様な社会の中に生きるカナダ人の気質にマッチし、今日の隆盛をもたらしたものと考えられる。

この展覧会では、カナダの第一線で活躍している10氏の作品約50点を展観し、版画の美を鑑賞していただくとともに、日本ではあまりなじみのないカナダの美術の紹介につとめた。



## 出品目録

作家名	作品名	作家名	作品名
ガスト・ブチ	今昔の例示	ウェイン・イーストコット	箱根 # 4
"	古跡を和らげる苔	"	箱根 # 5
"	三教の関守	"	凶象カッパ
"	無落款の教典	"	キャニヤピスカウ
"	羅に包まれる朝	ルネ・ドルエン	ロツガン湖
エド・バートラム	夕暮れ	"	高さ500フィート
"	無題	"	オピナカ
"	海岸の岩	"	トウルビエール, 5月1日
"	山かげの岩	ピエール・レオン・テトロ	揺れる庭のように描かれた窓
"	転がる岩	"	イヌイ族皇帝に敬意を表して
ウィリアム・ラブチャック	ニパバの書 I	"	創造の神への敬愛を示す象形文字
"	ニパバの書 II	"	お祭の喜びを描いたマンガラ
"	火の広野	"	宇宙教の原典
"	青空	デレック・マイケル・ベサント	二度目の照準
"	農場の赤	"	三部屋続きの室 # 1
ウォルター・ジュール	無題	"	三部屋続きの室 # 2
"	無題	"	三部屋続きの室 # 3
"	無題	"	まちがい
"	無題	パット・マルティン・ベイツ	白いハートの砂利の庭
ジュニア・ディクソン	一枚目の鏡	"	黒い鳥の愛の砂利の庭の中の九つの点をもつ尖塔への5度目の飛翔
"	水死	"	星の向うの星
"	最初の動き		
"	水死		
"	鏡をとおして		
ウェイン・イーストコット	箱根 # 2		
"	凶形		



印刷物 ポスター 36.5cm×51.5cm 100枚



## 第4回 千葉県移動美術館

東金市中央公民館  
 会 期 昭和55年10月8日～22日  
 千葉県立大利根博物館  
 会 期 昭和55年10月26日～11月9日  
 展示点数 54点  
 入場者数 東金市中央公民館 1,631人  
 千葉県立大利根博物館 2,429人

千葉県立美術館は、昭和49年10月に開館して以来、郷土にかかわりの深い作品を中心に徐々に収集の輪を広げている。これらの作品は県立美術館の常設展において、特別展等の期間を除いて順次公開されているが、更に、より広範な地域の県民に美術作品鑑賞の機会を提供するため、企画されたのが千葉県移動美術館である。

この機会に、千葉県立美術館の活動の一端を理解していただくとともに、美術をより身近かなものとしてとらえ、心ゆくまで、十分に鑑賞していただくため企画した。



## 出品目録

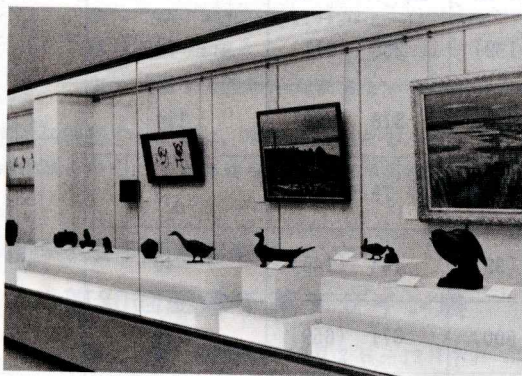
作家名	作品名	作家名	作品名
〈洋画〉			
浅井 忠	婦 人 像	浜口 陽三	ポ プ ラ
"	農 婦	星 襄一	雪 の 玉 A
霜鳥 之彦	緑のスウェーター	"	赤い地平線
都鳥 英喜	八瀬の秋	"	王の樹
黒田 重太郎	女と小犬	深沢 幸雄	旗
板倉 鼎	金魚と雲	"	人
大久保 作次郎	丘上の鐘楼	"	影 (メヒコ) A
菅谷 元三郎	沼 風 景	池田 満寿夫	SOMETHING 1
椿 貞雄	八重子像	"	ハートの位置
原 勝郎	コーヒーひき	"	マーガレットの庭
石橋 武治	筑波遠望	〈工芸〉	
"	水 辺	香取 秀真	霊獣文大花瓶
無縁寺 心澄	医大尖煙突	"	鳳凰文様花瓶
山本 不二夫	ハイデルベルグ風景	"	筋入花瓶
舘 嘸	A N G E L E S	"	菊 文 釜
〈日本画〉			
田岡 春径	竹 林	"	笑 獅 子 香 炉
富取 風堂	群 魚	津田 信夫	鳩 香 炉
島多 訥郎	秋 趣	"	一 點 玲 瓏
立石 春美	狗	"	鴨
大浦 掬水	獅子舞	"	鳳 翔 薰 香 炉
渡辺 学	川 口	"	子 迷 家 鴨
松尾 敏男	原 野	"	驚
〈版画〉			
浜口 陽二	ざ く ろ	信田 洋	北 辺 夜 猫 子
"	ピーマンのある静物	"	伸 び ゆ く 湾
		"	九 曜 盤
		"	蠟 銀 ひ さ 古 瓶

作家名 作品名

<書>

高	沢	南	総	桃	李	争	妍
中	村	象	閑	古	泉	千	櫻
種	谷	扇	舟	故	郷	之	山
鈴	木	方	鶴	万			
浅	見	錦	龍	古	泉	千	櫻

氣



印刷物    ポスター 59.5cm×42.3cm    1,000枚  
 目録(兼・チラシ) B5 2折 10,000枚



# 千葉県芸術祭

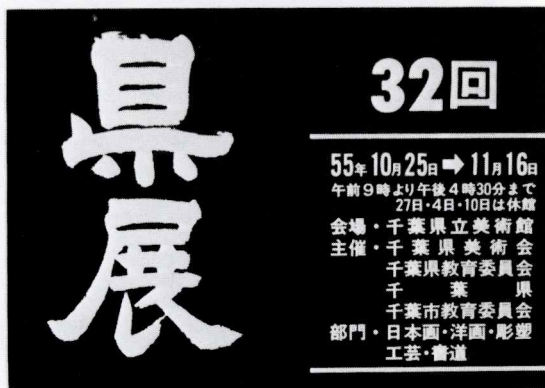
## 第32回 千葉県美術展覧会

会 期 昭和55年10月25日～11月16日

展示点数 1,677点

主 催 千葉県美術会・千葉県教育委員会・千葉県

本県の美術家の作品を広く紹介するとともに、県民の美意識を高め、郷土美術文化の振興と情操の純化に資するために開催するもので、日本画・洋画・彫塑・工芸・書道の各分野を展示した。



### 出品点数

	会員出品	公募出品	入選点数	展示点数	新入選
日本画	81 (72)	184 (176)	184 (139)	265 (211)	74
洋画	184 (176)	601 (601)	334 (293)	518 (469)	114
彫塑	49 (50)	32 (33)	30 (28)	79 (78)	9
工芸	44 (46)	136 (121)	100 (99)	144 (145)	45
書道	160 (159)	740 (757)	511 (500)	671 (659)	119
計	518 (503)	1693 (1688)	1159 (1059)	1677 (1562)	361

( ) 内は31回展

解説会 11月1日 書道 高沢南総氏  
 11月2日 日本画 斉藤惇氏  
 11月8日 洋画 篠崎輝夫氏  
 11月9日 彫塑 伊藤礼太郎氏  
 11月15日 工芸 青木滋芳氏

印刷物 目録 25.8cm×18.4cm 3,000部 ポスター 36.4cm×51.8cm 1,000枚

## 第12回 千葉県高等学校芸術祭

### 美術・工芸・書道展

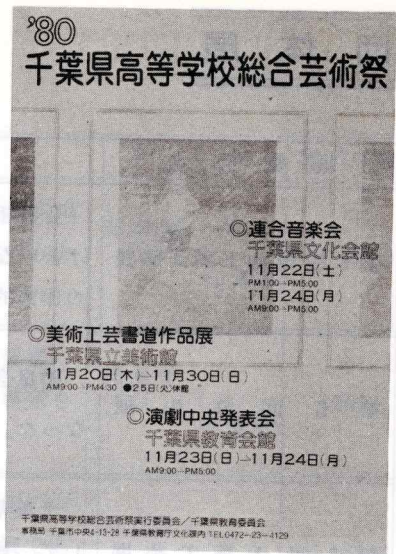
会 期 昭和55年11月20日～11月30日  
主 催 千葉県高等学校芸術祭実行委員会  
千葉県教育委員会

高等学校美術科、工芸科、書道科の一年間の平常授業での成果と、課外活動での成果及び教員の研究作品を展示し合うことにより、生徒は創作活動を刺激され、他校の状況を知り、教員は他校との比較で教育効果、方法について研究することを直接に目指し、間接には千葉県の芸術活動を昂揚することを目的とした。

#### 参加状況

部 門	書 道	美術・工芸	計
生 徒	89校	68校	157校
教 員	80校	20校	100校
計	169校	88校	257校

印刷物 ポスター 73.0cm×51.5cm 500枚 目 録 B5 1,000枚



## 昭和55年度千葉県芸術祭

### 第3回千葉県写真展

会 期 昭和55年11月20日～11月30日  
展示点数 118点  
主 催 千葉県写真家協会・千葉県教育委員会

首都に隣接する本県は、開発の一途を歩み目まぐるしい変貌をとげつつある。失われつつある風土を、一般公募の作品を中心にプロ写真家の秀れた作品を含み、広く県民に紹介した。

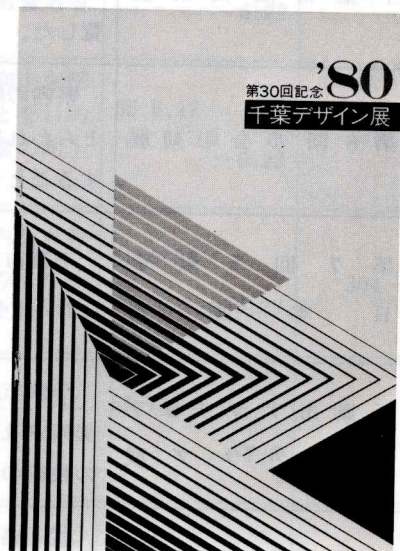
## 昭和55年度千葉県芸術祭

### 第30回記念千葉デザイン展

会 期 昭和55年12月2日～12月7日  
展示点数 115点  
主 催 千葉商業美術協会  
千葉市教育委員会  
千葉県教育委員会

商業デザイン作品を公募、展示することにより、県内デザインの質的レベルアップをはかるとともにデザイン志向者の育成に努めた。

応募者数	応募点数	入選者数	入選点数	展示点数	会員数
164	360	40	91	115	18





# 団 体 展

展 覧 会 名	内 容 等	会 期	展示点数
第 3 回 等 迦 千 葉 支 部 展	会員相互の自由な芸術的立場を尊重し、助け合いながら共通の発表の場を維持し、各自の作家的完成を目標とした。	55.4.1 ～ 4.6	73
第 6 回 弥 生 展	書星会の師教・師範による作品発表をおこなった。	55.4.1 ～ 4.6	79
第 7 回 千 葉 工 芸 展	千葉県及び一円の工芸家の作品発表の場として、また新人育成の場ともし、あわせて県美術文化の向上を目的とした。	55.4.1 ～ 4.13	50
第 17 回 全 日 本 総 合 書 道 大 展 覧 会	郷土の書道文化の向上をめざすため、一般・学生より公募し、応募者各位の作品の力量を競い合うことを目的とした。また全国各地からの参加もあった。	55.4.8 ～ 4.13	1,610
日 韓 児 童 画 交 歓 展	ロータリークラブの協力により、千葉市と韓国・仁川市の児童画を展示した。	55.4.15 ～ 4.20	230
千 葉 新 協 美 術 展	県内に在住する会員の研究発表を目的とするものであり、油彩・水彩・写真の作品を展覧した。	55.4.29 ～ 5.5	67
第 6 回 歩 会 彫 刻 展	県内の彫刻家が集まり、所属団体や流派にとらわれない自由な勉強と県下に作品を発表することを目的とした。	55.4.29 ～ 5.11	47
第 7 回 千 虹 会 日 本 画 展	千葉市を中心に在住の日本画家で各公募展において受賞した作家たちの作品を展覧した。	55.5.7 ～ 5.18	31
千 葉 市 ア マ チ ュ ア 美 術 ク ラ ブ 展	千葉市民又は千葉市内勤務者のアマチュア美術家及び美術愛好者の親睦を深め会員相互の技術の向上を目的とした。	55.5.13 ～ 5.18	230
二 科 千 葉 支 部 展	広く県下の一般・ジュニアより作品を公募し県美術文化の振興発展を願い、二科会の趣旨にそって開催した。	55.5.27 ～ 6.1	3,200

展 覧 会 名	内 容 等	会 期	展示点数
二 紀 会 千 葉 県 支 部 展	「美術の価値を流派の新旧に置かず、皮相の類型を排する」という二紀会の趣旨のもとに支部展を開催した。	55.5.27 ～ 6.1	85
墨 の 県 展	東京の隣接都市としての千葉の文化発展に力をつくし、併せて県民に伝統文化の啓蒙を促した。	55.6.3 ～ 6.8	253
第 1 回 千 葉 美 術 展	関東・1都6県の会員が地方美術文化の向上・発展をめざして開催した地域公募展である。	55.6.3 ～6.15	187
第 3 回 千 葉 一 陽 会 展	千葉県内在住美術家の絵画研修と美術普及のための展覧会。	55.6.10 ～6.15	53
千 葉 県 書 道 協 会 展	書道文化の振興と会員相互の研修・親睦をはかることを目的とした。	55.6.10 ～6.15	265
第 3 回 千 葉 新 芸 術 展	新芸術至上主義による造形美術の探究・研賛をもって真の芸術を開拓樹立し、画壇における最もオリジナルなギルトとして名誉ある足跡を記録することを目的とした。	55.6.17 ～6.22	37
表 美 展	県内の表具・経師・内装の技術の向上を図り、地域文化産業の発展に期することを目的に作品を公開し、日本古来の伝統技術の向上及び普及につとめた。	55.6.17 ～6.22	157
第 8 回 現 代 書 道 50 人 展 現 代 書 壇 代 表 名 作 展 千 葉 書 壇 秀 技 展 千 葉 書 壇 新 進 展	現代書道界における佳作と千葉県内から秀抜された作品を一堂に展示し、書道のより一層の興隆と普及をはかった。	55.6.24 ～6.29	304
第 8 回 千 葉 市 水 墨 画 同 好 会 連 合 会 展	会員の作品を広く一般に紹介するとともに水墨画の普及・啓蒙につとめた。	55.7.1 ～ 7.6	250
第 4 回 千 葉 美 術 シ ン ポ ジ ヴ ム 展 & 青 枢 展	混迷する現代社会にあって常に新しい世紀の幕開けを目指し、生命の尊厳に根ざした新たな芸術の探究・創造に努めた。	55.7.8 ～7.20	280



展 覧 会 名	内 容 等	会 期	展示点数
千葉盲学校陶芸展	授業で制作した作品を展示し、障害者に対する社会の理解を求めるとともに、児童・生徒に対する教育効果を高めるために開催した。	55.7.15 ～7.27	100
三軌会千葉展	千葉在住作家の作品、及び優秀な作品を展示した。	55.7.22 ～7.27	221
'80 精 鋭 展	女流作家を主体とする絵画展であり、既成のアカデミックな美学にあきたりない新進気鋭の作品発表を主とした。	55.7.22 ～ 8.3	44
千葉県写真家協会展	「貴方の選んだ県会議員の家庭に於ける素顔」というテーマで県民により一層親しまれる県会議員の方々を紹介した。	55.7.29 ～ 8.3	38
龍峽書道会千葉県人展	書道の普及推進をはかり、併せて健全なる精神の涵養に努め、ひいては人間形成の積成に努めることを目的とする。	55.8.5 ～8.10	450
千葉市教職員美術展	千葉市在住・在勤の教職員の創作意欲を活発にし、図工・美術教育の指導力の向上をはかった。	55.8.19 ～8.31	165
第10回いてふ会彫刻展	図工・美術科教師としての資質を高める為の研究の一端を作品発表を通して、会員の研修と同時に県下の数多くの保護者・児童・生徒をして美術に親しませる機会とした。	55.8.19 ～8.31	51
第 5 回 子供と教師の作品展	児童作品を発表し、造形美術教育の振興をはかるとともに、教師の造形作品についての研修・研究の場とした。	55.8.26 ～8.31	650
第20回白扇書道会展	会員や公募作品の発表とともに、中国の原拓を展示し、県民の鑑賞力を高め、また、会員の研究心を高めることを目的とした。	55.9.2 ～ 9.7	2,672
第9回写真千葉県展	県内全写真人を対象に写真文化の推進を目的に一般公募し、その作品を通してゆたかな心とゆとりある社会を築く一助とした。	55.9.2 ～9.15	220

展 覧 会 名	内 容 等	会 期	展示点数
第 6 回 千葉県児童美術展	児童の絵画作品を通して相互交流を図り、 児童の情操と美的感性の向上に資した。	55.9.9 ～9.15	803
静 雅 書 道 会 千 葉 地 区 小 中 学 部 展	就学前児童より中学生までの生徒による一 年一度の日頃の成果を発表し、父兄及び一般 からの声を聞き、今後の糧とした。	55.9.17 ～9.21	248
第 7 回 文化書道千葉県連合会展	文化書道会の教育書道の本義に則り、県下 の会員及び傘下の学童作品を展示して、その 成果を問うた。	55.9.17 ～9.21	1,060
千 葉 80 展	実験的な制作活動を行う美術家の交流をは かり、相互啓発をするとともに、各作家の研究 内容を十分に紹介できる十分なスペースを 確保し、新しい美術についての理解を深める ため開催した。	55.9.23 ～9.28	129
新構造千葉支部美術展	絵画・工芸・写真部門からなり、これらの 展示を通し地方作家の発掘を願い、かつ県民 の教養向上に努めた。	55.9.30 ～10.5	73
第 27 回 千 葉 県 勤 労 者 美 術 展	県内勤労者が余暇を利用して創作した美術 品の発表の場を提供することによって、文化 的教養の向上をはかった。	55.9.30 ～10.5	352
フ ァ ン シ ー 展	会員の技術を深め、多くの人々に作品を鑑 賞してもらい、批評を受け、今後の制作活動 の糧とした。	55.9.30 ～10.5	88
第 23 回 千 葉 市 小 ・ 中 ・ 養 護 学 校 児 童 ・ 生 徒 作 品 総 合 展	書写・理科・図工美術・技術家庭・特殊教 育・学校園4部門にわたり、市内児童・生徒 の作品を公開し、一年間の作品評価を行うと ともに、教師、児童・生徒、父母の啓蒙に資 した。	55.10.7 ～ 10.15	5,063
第 30 回 千葉デザイン展	商業デザイン作品を公募・展示することに より県内デザインの質的レベルアップをはか りデザイン志向者の育成を図る為開催した。	55.12.2 ～12.7	115
千葉県大学美術連盟展	美術を媒体とし、各加盟サークル間の親睦 をはかり、研究活動の集大成を多くの美術愛 好家に批評してもらい、今後の糧とするど もに芸術文化の振興をはかった。	55.12.2 ～12.7	235



展 覧 会 名	内 容 等	会 期	展示点数
概 念 と 空 間 展	現代美術における「概念と空間」に焦点をあてて創作・発表をした。	55.12.2 ～12.7	15
第 25 回 こども 県 展	次代を担うこども達の美的情操を豊かにし、創造性を高めることを目的に、県内児童・生徒の絵画作品を一堂に展示した。	55.12.9 ～ 12.21	5,800
登龍社・宮坂会書初展	書の古典に立脚し現代に創作して、伝統ある書初として展示し、書道の向上発展をはかった。	56.1.6 ～1.11	350
葉 美 会 展	本館友の会員が創作の楽しみを分かち合いかつ実技講座や写生会等の成果を発表し、今後の糧とした。	56.1.6 ～1.18	150
親 子 絵 画 展	親と子表現こそ異なる絵画に託した夢を作品として発表し、多くの方々に批評してもらい、かつコミュニケーションの輪を広げようと開催した。	56.1.13 ～1.18	202
第 5 回 日 輝 展 選 抜 展	油彩・水彩・版画・日本画・レザークラフト・写真等の作品を展示し、会員相互の融和と交流をするとともに、県内芸術文化の向上に資した。	56.1.20 ～1.25	95
第 6 回 こども 造 形 展	幼児・児童の立体・平面の作品を発表し、彼らの意欲の増進と美術教育の研究を目的とした。	56.1.27 ～ 2.1	460
ダ ネ ラ 作 品 展	デンマーク伝統刺しゅうのひとつである、ダネラを広く一般の方々に紹介し、日本流にデフォルメされた作者達の技術を知ってもらうため開催した。	56.1.27 ～ 2.1	46
第 33 回 千 葉 県 小・中・高校 書 初 展	課題を統一募集し、地方で審査するとともに中央で席書を行い、習字・書道教育の向上と振興をはかった。	56.2.3 ～ 2.8	725
第 6 回 千 葉 県 民 写 真 展	アマチュアカメラマンが、その力量を競い合い、写真文化の発展と写真を通じて地域社会に貢献する精神の涵養を目的とした。	56.2.3 ～2.15	308

展 覧 会 名	内 容 等	会 期	展示点数
千葉大学教育学部 美術科卒業制作展	卒業を目前にして4年間の美術科教育研究の成果の一部を作品を通して発表した。	56.2.10 ~2.15	58
千葉大学学生書道展	卒業生を中心とした学生の一年間の学習の成果を発表した。	56.2.10 ~2.15	100
千 葉 展	新象作家協会・独立美術協会・モダンアート協会・行動美術協会・創画会・新制作協会に所属する県内在住の作家による中央画壇の活気ある現代美術を広く県民に紹介した。	56.2.17 ~ 3.1	106
第 12 回 千葉市民美術展覧会	千葉市民よりの公募展であり、市民の芸術文化の振興と向上をはかった。	56.3.3 ~3.22	1,174
第28回書星教育部展	小・中・高校生の習字・書道の振興と技能向上のため半切による大作を指導し、併せて創作活動と作品鑑賞の両面の向上をはかった。	56.3.24 ~3.29	2,465



## 講演会

### (1) 近代美術の原風景

講師 読売新聞社編集委員

田中 穰氏

期日 昭和55年4月26日

本展が、日本芸術院賞の受賞作品を主に、故川合玉堂会員の資金によって買い上げとなり文部省に寄贈された作品及び日本芸術院会員の寄贈による日本芸術院の収蔵作品展であるから、日本芸術院の歴史的な推移を考へてみる必要があるとし、大正8年に帝国美術院として発足してから、昭和12年の文芸・芸能を加えての帝国芸術院、さらに、昭和22年に改称されて今日に至っている日本芸術院と美術界の動向について話された。氏は、スライドによって、特に洋画・日本画にしばって話され、本展が彫塑部門が含まれていないとはいえ、近代日本美術の歩みを理解する上で意義ある展覧会であると結ばれた。

### (2) 夢二の魅力

講師 東京国立博物館学芸部美術課主任研究官

細野正信氏

期日 昭和55年9月15日

夢二の芸術を理解するには、まず、夢二の生涯について知る必要があるとし、夢二の生いたちから、後の夢二の画業の出発点となった早稲田実業学校や専攻科当時の活動ぶり、また、岸たまきとの結婚、その後のいわゆる一世を風靡していった夢二式美人画の数々。そして、有名な「宵待草」にまつわるエピソード等々。その多彩な生涯について話されたが、特に、夢二の代表作の一つ「黒船屋」については、当時の社会的な背景や、夢二の身のまわりを考えると苦境の中でこそ、あの名作が生まれたのだという。そして、ローランサンなどの外国作家からの影響と思われる点もみられるが、あの表情、からだの線の描写など、やはり、夢二独特の芸術であると結ばれた。

50

### (3) 高村光太郎、その芸術

講師 高村記念会事務局長

北川太一氏

期日 昭和56年1月15日

北川氏は、まず、高村光太郎を研究しようとした動機について語られ、続いて、光太郎の貴重な記録映画が上映された。「十和田裸婦像」を制作中の光太郎や山小屋での生活など、当時をしのぶことができた。

そして、光太郎の芸術については、その生涯について知る必要があるとし、それぞれの時代の社会的な背景や光太郎をとり巻く様々な世界と対比させて話された。

光太郎の芸術論のマスター・キーであると北川氏のいう評論「緑色の太陽」は、日本の印象派宣言であるといわれるが、むしろ、芸術家の人格の無限の自由を求めた人間宣言であったという。



# 講習会

「みる・かたる・つくる」という本館の事業の一環として、実技講座を実施しているが、本年度は、次の講座を行った。

## (1) デッサン入門講座

期 日 第1期 昭和55年8月7日・8日  
第2期 昭和55年9月12日・13日  
第3期 昭和55年11月8日・16日

講 師 第1期・第2期・第3期とも  
県美術会常任理事 篠崎輝夫氏

参加者数 各期30名

内 容 初心者を対象に、石膏デッサンを行い、形や面のあり方、明暗・立体感・動き・質感など、石膏デッサンの基礎的な技法を学習した。



## (2) 洋画基礎講座

期 日 第1期 昭和55年5月30日・31日  
昭和55年6月13日・14日  
昭和55年7月25日・26日  
昭和55年8月22日・23日  
昭和55年9月14日・15日  
第2期 昭和55年10月25日・26日  
昭和55年11月22日・23日  
昭和55年12月13日・14日  
昭和56年1月24日・25日  
昭和56年2月14日・15日

講 師 第1期 千葉大学助教授 戸田健夫氏  
第2期 千葉大学教授 太田洋三氏

参加者数 各期30名

内 容 第1期は、デッサンから水彩画を中心に、第2期は、デッサンから油彩画を中心に、それぞれ洋画の基礎的な技法を学習した。



## (3) 彫塑制作講座

期 日 第1期 昭和55年5月24日・25日  
昭和55年5月31日・6月1日  
昭和55年6月7日・8日  
第2期 昭和55年10月1日・2日  
昭和55年10月9日・10日  
昭和55年10月17日・18日・19日

講 師 第1期 日展評議員 大賀賀 力氏  
第2期 新制作協会協友 青木三四郎氏

参加者数 各期20名

内 容 初心者を対象に、首像の制作を行い、心棒づくりから粘土による肉付け、さらに、石膏取りまでの過程を学習し、彫塑の基礎的な技法について学んだ。





#### (4) 洋画研修講座

期 日 第1期 昭和55年6月21日・22日  
昭和55年7月5日・6日  
昭和55年9月6日・7日  
昭和55年9月20日・21日  
昭和55年10月4日・5日  
第2期 昭和55年10月28日・29日  
昭和56年1月27日・28日  
昭和56年3月24日・25日

講 師 第1期 千葉大学教授 武内和夫氏  
第2期 千葉大学教授 海老沢巖夫氏

参加者数 各期30名

内 容 基礎講座より技術的にや、高い内容とし、  
第1期・第2期とも、油彩画による裸婦の  
制作を中心に学習した講座であった。



#### (5) 書芸入門講座

期 日 昭和55年8月10日  
講 師 県美術会々長 浅見喜舟氏

参加者数 30名

内 容 初心者を対象に行い、用具についてや筆の  
持ち方などの理論的なことから、楷書、行  
書、草書と実際の練習を通して、書道の基  
礎的な学習をし、書の持つ美しさを理解す  
る講座であった。



#### (6) てん刻入門講座

期 日 第1期 昭和55年8月30日・31日  
第2期 昭和56年3月28日・29日

講 師 第1期・第2期とも  
日展審査員 古川 悟氏

参加者数 各期30名

内 容 初心者を対象に、てん刻の歴史や用具・材  
料についての理論的なことから、自分の名  
前を印材に刻していく過程を通して、てん  
刻の基礎的な技法を学習した。



## (7) 陶芸入門講座

期 日 昭和55年10月31日・11月1日・2日  
昭和55年11月29日・12月2日

講 師 県美術会常任理事 山本正年氏  
県美術会常任理事 土肥 満氏

参加者数 30名

内 容 粘土の種類、窯の種類、陶磁器の種類や歴史、釉薬についてなどの講義の後、制作にはいり、コーヒーカップ、まっ茶わん、等を作りあげ、素焼き、本焼きを行い、作る喜びと使う楽しさを味わった講座であった。



## (8) 七宝焼入門講座

期 日 第1期 昭和55年12月13日・14日  
第2期 昭和56年2月27日・28日

講 師 第1期・第2期とも  
千葉大学教授 長南光男氏

参加者数 30名

内 容 銅板を切り、「焼きなまし」したり、七宝えのぐを盛って焼くことによって、七宝焼の基礎的な技法を学んだと同時に、使う楽しさを味わった講座であった。





# 美術を語る会

美術普及事業の一環として、美術一般に関する問題をテーマに「美術を語る会」を定期的に開催し、作家や作品について理解を深めている。

## 第1回 昭和55年5月17日

話題提供者 日本画家 松尾敏男氏

テーマ 私の絵画観

日本芸術院所蔵作品による「近代日本美術の巨匠展」の開催中であり、本展を基に、氏の作家としての目を通して、絵画について話題提供された。特に、氏の絵画に対する考え方については興味深く、その真剣な語り方は氏の絵画に対する姿勢をうかがうことができた。

## 第2回 昭和55年8月16日

話題提供者 版画家 深沢幸雄氏

テーマ ぼくの版画に与えたメキシコの古代美術について

企画展「現代版画三人展」にともない、出品作家の一人である深沢氏より話題提供があった。特に中南米のマヤ・メキシコ文化についてのスライド映写による解説や氏の独特の版画技法の説明は、氏の芸術を理解する上で有意義であり興味深かった。

## 第3回 昭和55年9月27日

話題提供者 夢二会 竹久不二彦氏  
高相利郎氏  
沢田城子氏

テーマ 夢二の世界を語る

特別展「竹久夢二展」にともない、夢二会会員三名の方々から話題提供があった。夢二の芸術について、様々な角度から語られたが特に参加した方の中で、所蔵している夢二の作品が見せられるなど活発に語り合いがなされた。

## 第4回 昭和55年11月30日

話題提供者 洋画家 篠崎輝夫氏

テーマ 美術と私

氏の日頃美術について考えていることや、制作に対する構え、モチーフを求めてのスケッチ旅行など、日常生活と美術について語られた。また、氏の作品についてもふれられ、氏の芸術を鑑賞する上で有意義な話題を提供された。

## 第5回 昭和56年1月25日

話題提供者 美術評論家 中村傳三郎氏  
日本文学風土学会会員

鳥海宗一郎氏

テーマ 光太郎と房総

特別展「高村光太郎、その芸術」にともない、二氏より話題提供があったが、鳥海氏は特に文学の中から光太郎と房総とのかかわりについて話され、中村氏は近代美術の中での光太郎の芸術や芸術論について話された。

## 第6回 昭和56年3月7日

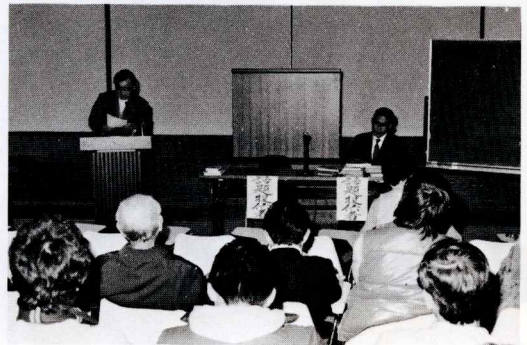
話題提供者 千葉大学助教授 戸田健夫氏

テーマ 生活の中の美術

日常生活と美術とのかかわりについて語り合った。特に表現するという事は自己実現であり、生活の中では、単なるおもしろい、楽しいだけではなく、苦痛を伴うものであるから、それに負けることなく続けることによって、自己の表現がより深まり、高まっていくと結ばれた。



第1回



第5回

## 第4回 美術館夏季大学 —美術入門講座—

昨年「日本洋画史の流れ」をさらに掘り下げ、明治・大正期に重要な位置を占めた洋画家たちに焦点をあてて開講した。

期 日 昭和55年8月1日・2日

参加者数 110名

内 容

日 時	講 師	課 題	内 容	日 時	講 師	課 題	内 容
8 月 1 日	高橋在久 (千葉県立 美術館長)	浅井忠と 明治美術 会の人々	1. 明治初期の欧風化 と国粹主義 2. 浅井忠の洋画入門 と十一会活動 3. 浅井忠の画業と明 治美術会の活動 4. 浅井忠と明治美術 会の群像	8 月 2 日	田中 穰 (読売新聞 社編集委 員)	初期文展 の人々	1. 文展の出発 2. 五浦の天心画塾 3. 波乱を呼ぶ審査員 制度 4. 菱田春草の悲劇 5. 再興院展と二科の 旗上げ



田中氏による講義



友の会と共催で行われ、美術作品や文化財をたずねながら、同好の親睦を深めるものである。

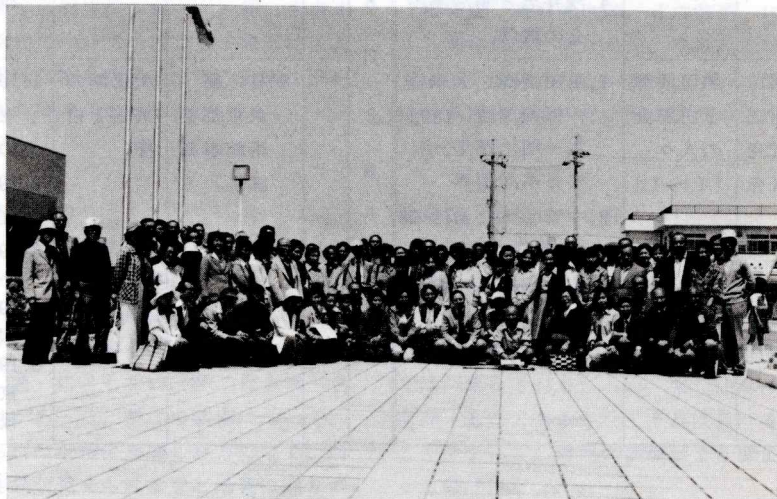
## (1) 初夏の風の中を

— 下絵の美術と文化財を訪ねる —

期 日 昭和55年5月11日

参加者数 105名

まず、県立大利根博物館を訪れ、利根川を中心とした東下総地方の歴史と文化について学び、次に、潮来町の長勝寺で国指定重要文化財の銅鐘、県指定の山門・仏殿などを拝観し、最後に香取神宮を参拝した。五月晴れの日、初夏の日ざしと新緑の中で楽しい一日を過ごした。



## (2) 秋草の花の中 — 信濃路を行く —

期 日 昭和55年10月25日・26日（1泊2日）

参加者数 40名

出発の時にパラついていた小雨も、懐古園に着く頃には秋の日ざしがさしていた。小山敬三美術館をゆっくり見学して、第一日目の宿である霊泉寺温泉へ。第二日目は、山本記念館で版画や日本農民美術の資料等を見学、前山寺、常楽寺、安楽寺では、国宝や重要文化財などを見学、最後に信濃デッサン館で夭折の画家たちのデッサンにふれ、信濃路をあとにした。

千葉県立美術館報の発行

B5

No.1～3 各 3,500部  
No.4～5 各 3,600部

VOL.7No.1 (55.5.13発行6頁)

- 目次
- ・日本芸術院の所蔵作品を展観
  - ・新収蔵作品紹介
  - ・常設収蔵作品展
  - ・つぎつぎと名作生まれる。―七宝焼講習会―
  - ・近代美術の内面にふれて本年度初の講演会開く
  - ・職員異動
  - ・県民アトリエあんない

VOL.7No.2 (55.7.21発行6頁)

- 目次
- ・房総の美術家シリーズ(10)「現代版画3人展」
  - ・第四回 美術館夏季大学
  - ・特別展「竹久夢二展」
  - ・緑の下総へバスの旅終わる
  - ・関東地区博物館協会、総会・研究会開く
  - ・千葉県立美術館協議委員決まる
  - ・県民アトリエあんない―各種講座はじまる―

VOL.7No.3 (55.9.8発行6頁)

- 目次
- ・甘く、やるせない美の世界「竹久夢二展」
  - ・一人でも多くの方々に美術鑑賞を  
―第四回千葉県移動美術館―
  - ・第四回夏季大学終わる
  - ・昭和55年度第1回美術協議会開く
  - ・友の会「美術探訪の旅」にご参加を
  - ・県民アトリエあんない―十月からの実技講座  
内容と日程決まる―

VOL.7No.4 (55.12.1発行6頁)

- 目次
- ・美の根
  - ・特別展「高村光太郎、その芸術」光太郎と房  
総
  - ・第2期常設収蔵作品展
  - ・解説員の養成
  - ・陶芸用電気窯を設置
  - ・特別展竹久夢二展を終えて
  - ・各種講座あんない

VOL.7No.5 (56.3.1発行6頁)

- 目次
- ・美術品取得基金での第1回購入作品
  - ・県民アトリエ外構工事進む
  - ・美術館研究員会議開かる
  - ・「高村光太郎、その芸術」展終る
  - ・情報資料室から
  - ・各種講座あんない





# 友の会(葉美会)

## (1) 運営方針

- ① みる・かたる・つくる美術活動に積極的な参加促進をはかる
- ② 会員加入の促進と県民アトリエ事業への積極的な参加
- ③ 組織の拡充と活動の充実をはかる

## (2) 組織

人数 会員数 1,078名  
 名称 千葉県立美術館友の会

### ●千葉県立美術館友の会役員

職名	氏名	分担
顧問	浅見喜舟	
名誉会員	松戸節三	
"	市原正夫	
会長	鈴木民三	
副会長	江尻幹雄	親睦
"	高橋在久	"
"	永田澄子	"
事務局長	大里功	総務
監事	始関妙	広報
"	三宅寿美子	親睦
"	高梨義男	"
理事	安田博亮	総務
"	新城瑠璃子	"
"	押尾禎一	広報
"	平野元三郎	親睦
"	大藤敬美	親睦
"	石井秀雄	"
"	青木了	"
"	中村幸子	事業
"	安増順	"
"	高橋瑛	"
"	高木正	"
評議員	大高鐘蔵	
"	木内俊雄	
"	安達園子	
"	横沢正雄	

職名	氏名
評議員	高橋喜一郎
"	芳垣良一郎
"	加藤信子
"	西田葆
"	藍野正和
"	松本康雄
"	高宮知代
"	植木照
"	広瀬慶子
"	長谷川芳衛
"	村井和正
"	渡辺美智子
"	小室守
"	林美貴枝
"	日暮幸子
"	酒井千代子
"	近藤藤愛子
"	朝生実
"	今井忠昭
"	和田修彦

## (3) 事業

① 友の会だより“しおさい”の刊行、県民アトリエの各種“実技”講座への積極的な参加、美術鑑賞の旅、友の会講演会、ボランティア研修会などを本館と共催で行った。

② 第5回葉美会展  
 会期 昭和56年1月6日～1月18日  
 展示点数 150点 91点  
 実技講座での作品や家事や勤務の合間に製作した苦心の力作を持ちより、“つくる”活動から、“みる”“かたる”活動を通して、美術愛好者の親睦を深め、楽しさを分かち合う機会とした。最終日には講師の武内和夫氏から出品作品の一点一点について、適切な指導講評が行なわれた。

No.23 (55.6.12発行 8頁)

- 目次・「県民アトリエ」スタート「創る」がいつそうの喜びを
- ・心に残る水上勉氏のお話
  - ・初夏の風の中を一下絵の美術と文化財を訪ねるー
  - ・心身ともに満たされた一日
  - ・変転四十年(前館長)
  - ・館長就任に際して
  - ・友の会理事会評議会開く
  - ・講座あんない「デッサン入門講座」
  - ・展覧会あんない

No.26 (55.11.30発行 6頁)

- 目次・「県展」を飾る 洋画講座生入選あいつぐ
- ・秋草の花の中ー信濃路を行くー
  - ・「高村光太郎、その芸術」準備あれこれ
  - ・県民アトリエ拝見 初窯にぎわう
  - ・会員ただ今 1,036名
  - ・「解説ボランティア」締め切る
  - ・展覧会あんない
  - ・第五回葉美会展に出品を

No.24 (55.7.25発行 6頁)

- 目次・写実的な表現能力を高めよう
- ・裸婦を描く 友の会主催「洋画入門講座」
  - ・前館長市原正夫氏、多古美術サロンを開設
  - ・北絵の文化財めぐり (1)猿田神社
  - ・友の会洋画OB講座へのお誘い
  - ・展覧会あんない
  - ・講座あんない

No.27 (56.2.18発行 6頁)

- 目次・新春のオープニング 第五回葉美会展にぎわう
- ・葉美会展を顧みて
  - ・会員ミニニュース
  - ・光太郎展、その後
  - ・活用される情報資料室
  - ・解説ボランティアの研修会
  - ・展覧会あんない
  - ・七宝焼、てん刻講座ご案内

No.25 (55.9.22発行 6頁)

- 目次・秋を迎えて洋画講座ますます充実
- ・理事会・評議員会だより
  - ・秋の信濃路ー美術探訪の旅へどうぞー
  - ・浅井忠研究会誕生
  - ・夏季大学おわる
  - ・さようなら永田副会長
  - ・美術館めぐり (3)弘前市立博物館
  - ・展覧会あんない 特別展「竹久夢二展」開く





# 昭和55年度事業一覽

月	本館企画の展覧会	普及事業	団体展
4	1 常設収蔵作品展	<ul style="list-style-type: none"> <li>・美術講演会(4/26) テーマ「近代日本美術の原風景」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>第3回等迦千葉支部美術展 (4/1~4/6)</li> <li>第6回弥生展 (4/1~4/6)</li> <li>第7回千葉工芸展 (4/1~4/13)</li> <li>第17回全日本綜合書道大展覧会 (4/8~4/13)</li> <li>日韓児童画交歓展 (4/15~4/20)</li> <li>第7回千葉新協美術展 (4/29~5/5)</li> <li>第6回歩会彫刻展 (4/29~5/11)</li> </ul>
	19 特別展 —日本芸術院所蔵作品による— 近代日本美術の巨匠展		
5	18	<ul style="list-style-type: none"> <li>・春の美術鑑賞の旅(5/11)</li> <li>・洋画基礎講座(1期) (5/30・31) (6/13・14) (7/25・26) (8/22・23) (9/14・15)</li> <li>・第1回美術を語る会(5/17)</li> <li>・彫塑制作講座(1期) (5/24・25) (5/31・6/1) (6/7・8)</li> <li>・洋画研修講座 (6/21・22) (7/5・6) (9/6・7) (9/20・21) (10/4・5)</li> <li>・友の会洋画入門講座 (6/28・29) (7/12・13) (8/7・8) (9/27・28)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>第7回千虹会日本画展 (5/7~5/18) 千葉市アマチュア美術クラブ展 (5/13~5/18)</li> <li>第25回二科千葉支部展 (5/27~6/1)</li> <li>二紀会千葉県支部展 (5/27~6/1)</li> </ul>
7	25 房総の美術家シリーズ(10) 現代版画三人展	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第2回美術を語る会(7/19)</li> <li>・第4回美術館夏季大学(8/1・2)</li> <li>・書芸入門講座(8/10)</li> <li>・てん刻入門講座(1期) (8/30・31)</li> <li>・デッサン入門講座(1期) (9/10・11)</li> <li>・友の会洋画OB講座(9/13・14)</li> <li>・美術講演会(9/15)</li> <li>・第3回美術を語る会(9/27)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>第4回墨の県展 (6/3~6/8)</li> <li>第1回千葉美術展 (6/3~6/15)</li> <li>第3回千葉一陽会展 (6/10~6/15)</li> <li>第27回千葉県書道協会展 (6/10~6/15)</li> <li>第3回千葉新芸術展 (6/17~6/22)</li> <li>第11回表美展 (6/17~6/22)</li> <li>第8回千葉書壇秀技展他 (6/24~6/29)</li> <li>第10回千葉市水墨画同好会連合会展 (7/1~7/6)</li> <li>第4回千葉美術シンポジウム展&amp;青枢展 (7/8~7/20)</li> <li>千葉県立千葉盲学校陶芸展(7/15~7/27)</li> <li>三軌会千葉展 (7/22~7/27)</li> <li>'80精鋭展 (7/22~8/3)</li> <li>千葉県写真家協会展 (7/29~8/3)</li> <li>第1回龍峽書道会千葉県人展(8/5~8/10)</li> <li>第8回千葉市教職員美術展(8/19~8/31)</li> <li>第10回いてふ会彫刻展 (8/19~8/31)</li> <li>第5回子供と教師の作品展(8/26~8/31)</li> </ul>
9	7 特別展 竹久夢二展	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第4回美術館夏季大学(8/1・2)</li> <li>・書芸入門講座(8/10)</li> <li>・てん刻入門講座(1期) (8/30・31)</li> <li>・デッサン入門講座(1期) (9/10・11)</li> <li>・友の会洋画OB講座(9/13・14)</li> <li>・美術講演会(9/15)</li> <li>・第3回美術を語る会(9/27)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>第20回白扇書道会展 (9/2~9/7)</li> <li>第9回写真千葉県展 (9/2~9/15)</li> <li>第6回千葉県児童美術展 (9/9~9/15)</li> <li>静雅書道千葉地区展 (9/17~9/21)</li> <li>第7回文化書道千葉県連合会展 (9/17~9/21)</li> <li>千葉'80展 (9/23~9/28)</li> </ul>

月	本館企画の展覧会	普及事業	団体展
10	9.13 特別展 一抒情の旅路— 竹久夢二展	・彫塑制作講座(2期) (10/1,2,9,10,17,18,19)	第10回新構造千葉支部美術展 (9/30~10/5)
	15 第4回千葉県移動美術館 (東金市中央公民館)	・洋画基礎講座(2期) (10/25,26,11/22,23,12/13,14 1/24,25,2/14,15)	第27回千葉県勤労者美術展 (9/30~10/5)
11	22 第4回千葉県移動美術館 (千葉県立大利根博物館)	・洋画研修講座(2期) (10/28,29,11/11,12,1/27,28, 2/24,25)	第12回ファンシー展 (9/30~10/5)
	26 第4回千葉県移動美術館 (千葉県立大利根博物館)	・陶芸入門講座 (10/31,11/1,2,29,12/2)	第23回千葉市小・中・養護学校 児童生徒作品総合展 (10/7~10/15)
12	9 常設収蔵作品展	・デッサン入門講座(3期) (11/8,9)	第32回県展 (10/25~11/16)
	5 常設収蔵作品展	・第4回美術を語る会(11/29)	第12回千葉県高等学校総合芸術祭美術工芸 書道作品展 (11/20~11/30)
1	6 特別展 高村光太郎、その芸術	・七宝焼講習会(1期) (12/6,7)	千葉県芸術祭写真部門第3回千葉県写真展 (11/20~11/30)
	13 カナダ現代版画 10人展	・第4回美術を語る会(11/29)	第30回千葉デザイン展 (12/2~12/7)
2	25 カナダ現代版画 10人展	・七宝焼講習会(2期) (12/6,7)	第9回千葉県大学連盟美術展 (12/2~12/7)
	6 特別展 高村光太郎、その芸術	・美術講演会(1/18)	概念と空間展 (12/2~12/7)
3	13 カナダ現代版画 10人展	・第5回美術を語る会(1/31)	第25回子ども県展 (12/9~12/21)
	25 カナダ現代版画 10人展	・第5回美術を語る会(1/31)	第16回登龍社・宮坂会書初展 (1/6~1/11)
3	6 特別展 高村光太郎、その芸術	・第5回美術を語る会(1/31)	第5回葉美会展 (1/6~1/18)
	13 カナダ現代版画 10人展	・第5回美術を語る会(1/31)	第2回親子絵画展 (1/13~1/18)
3	25 カナダ現代版画 10人展	・七宝焼講習会(2期) (2/27,28)	第5回日輝展選抜展 (1/20~1/25)
	6 特別展 高村光太郎、その芸術	・第6回美術を語る会(3/7)	第6回子ども造形展 (1/27~2/1)
3	13 カナダ現代版画 10人展	・てん刻入門講座(2期) (3/28,29)	ダネラ作品展 (1/27~2/1)
	25 カナダ現代版画 10人展	・てん刻入門講座(2期) (3/28,29)	第33回千葉県小・中・高校書初展 (2/3~2/8)
3	6 特別展 高村光太郎、その芸術	・第6回美術を語る会(3/7)	第6回千葉県民写真展 (2/3~2/15)
	13 カナダ現代版画 10人展	・第6回美術を語る会(3/7)	千葉大美術科・書道科卒業制作展 (2/10~2/15)
3	25 カナダ現代版画 10人展	・てん刻入門講座(2期) (3/28,29)	第3回千葉展 (2/17~3/1)
	6 特別展 高村光太郎、その芸術	・てん刻入門講座(2期) (3/28,29)	第12回千葉市民美術展 (3/3~3/22)
3	13 カナダ現代版画 10人展	・てん刻入門講座(2期) (3/28,29)	第28回書星教育部展 (3/24~3/29)
	25 カナダ現代版画 10人展	・てん刻入門講座(2期) (3/28,29)	



# 利用状況

昭和55年度入館者一覧表

昭和56年3月31日現在 (55.4.1~56.3.31)

種別 月	開館 日数	個人			団体						人数 合計	備考
		一般成人	大・高生	中・小生	一般成人		大・高生		中・小生			
					人数	団数	人数	団数	人数	団数		
4	26	6,219	229	1,367	124	4	40	1	431	5	8,410	特別展 近代日本美術の巨匠展
5	27	7,260	412	1,702	104	4	95	1	1,014	8	10,587	
6	25	8,186	317	2,157	270	7	0	0	39	1	10,969	
7	27	7,135	364	1,530	291	7	0	0	382	6	9,702	
8	27	6,084	369	2,258	97	3	0	0	20	1	8,828	
9	25	14,420	742	4,202	345	10	130	1	145	1	19,984	特別展 竹久夢二展
10	19	19,285	1,359	10,573	472	13	360	1	2,524	16	34,573	
11	24	12,423	858	5,269	716	23	202	2	857	8	20,325	
12	21	6,607	537	4,641	274	9	0	0	658	12	12,717	
56年 1	23	8,100	546	3,440	112	4	165	2	220	2	12,583	特別展 高村光太郎、 その芸術
2	24	7,494	555	3,405	313	9	0	0	562	4	12,329	
3	26	10,306	612	3,284	196	7	0	0	422	7	14,820	1日平均598人
計	294	113,519	6,900	43,828	3,314	100	992	8	7,274	71	175,827	1日平均467人
累計	1,828	853,831	開館以来									

地域別入館者状況

昭和56年3月31日現在 (55.4.1~56.3.31)

種別 月	開館日数 (日)	県内		県外		その他 外国(人)
		千葉市(人)	その他の県内(人)	東京都(人)	その他の県外(人)	
4	26	5,217	2,852	196	143	2
5	27	5,307	4,861	180	223	16
6	25	5,969	4,636	214	146	4
7	27	5,332	3,571	514	261	24
8	27	5,103	3,209	233	271	12
9	25	11,091	7,910	558	417	8
10	19	20,923	11,774	1,056	812	8
11	24	11,669	7,500	616	497	43
12	21	7,317	4,741	345	309	5
56年 1	23	6,840	4,978	336	424	5
2	24	7,037	4,992	146	154	0
3	26	9,171	4,993	341	305	10
計	294	100,976	66,017	4,735	3,962	137
累計		166,993		8,697		137

# 日誌抄

黙念飛閣

- 4月4日 友の会理事会  
 15 千葉市長来館  
 19 特別展「近代日本美術の巨匠展」始まる  
 25 千葉県博物館協会役員会  
 26 講演会「近代美術の原風景」講師・田中 穰氏
- 5月7日 京都府総務部財政課より来館  
 11 友の会美術鑑賞バスの旅  
 14 県博物館協会役員会及び総会  
 17 第1回美術を語る会  
 24 彫塑制作講座始まる  
 29 関東地区博物館協会総会・研究会(30日まで)
- 6月4日 県博物館協会企画委員会  
 10 県博物館協会役員会  
 28 友の会主催洋画入門講座始まる
- 7月2日 研究協力校(千葉市立新宿小学校)展覧会を見学  
 18 目黒区教育委員会美術館準備室より来館  
 20 国立国際美術館より来館  
 25 「現代版画三人展」始まる  
 博物館実習始まる(8名、31日まで)
- 8月1日 美術館夏季大学開催(2日まで)  
 4 友の会理事会  
 6 昭和55年度第1回美術館協議会  
 10 書芸入門講座開講  
 16 第2回美術を語る会  
 25 山口県立美術館より来館
- 9月10日 デッサン入門講座(1期)開講  
 13 特別展「竹久夢二展」始まる(10月15日まで)  
 15 美術講演会 講師・細野正信氏
- 27 福岡県文化会館より来館  
 第3回美術を語る会
- 10月1日 彫塑制作講座(2期)開講  
 2 新潟県教育委員会社会教育課来館  
 8 移動美術館始まる(11月9日まで)  
 14 浜松市美術館より来館  
 28 岐阜県美術館開設準備室より来館  
 31 陶芸入門講座始まる
- 11月2日 鹿児島市教育委員会社会教育課より来館  
 8 デッサン入門講座(3期)始まる  
 10 美術館資料審査委員会  
 12 県博物館協会第2回研究会  
 21 神奈川県文教委員来館
- 12月2日 上田市立博物館長来館  
 13 七宝焼講習会(1期)始まる(14日まで)
- 1月6日 特別展「高村光太郎、その芸術」始まる(2月6日まで)  
 8 美術館資料審査委員会  
 15 美術講演会 講師・高村記念会事務局長 北川太一氏  
 25 第5回美術を語る会
- 2月4日 国立国際美術館長来館  
 15 洋画基礎講座(最終日)  
 25 福島県いわき市総務部来館
- 3月3日 美術館協議会  
 4 第2回県博物館職員研修会  
 7 ボランティア研修会  
 21 松山市立子規記念博物館より来館  
 24 洋画研修講座(25日まで)  
 28 てん刻入門講座



# 関係令規

## 1. 博物館管理規則

昭和45年12月25日教育委員会規則第22号

目的

第1条 この規則は、教育機関設置条例（昭和32年千葉県条例第4号）第20条に規定する博物館（以下「館」という。）の管理に関し必要な事項を定めるものとする。

（開館時間）

第2条 館の開館時間は、午前9時から午後4時30分までとする。

2. 館の長（以下「館長」という。）は、必要があると認めるときは、前項の規定にかかわらず、開館時間を変更することができる。

（休館日）

第3条 館の休館日は、次のとおりとする

- 一 定期休館日 月曜日（その日が国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）第2条に規定する日に当たるときは、その翌日）
- 二 国民の祝日に関する法律に規定する日
- 三 年始休館日 1月1日から1月4日まで
- 四 年末休館日 12月26日から12月31日まで
- 五 臨時休館日 特別の事情により、館長が休館を必要と認めた日

2. 前項の休館日であっても、館長が特に必要と認めた場合は、館の全部又は一部を開館することができる。  
（入館の制限）

第4条 館長は、次の各号の一に該当する者に対して入館を禁じ、又は退館を命ずることができる。

- 一 特別展覧会を観覧しようとする者で、所定の観覧券を所持しないもの
- 二 適当な指導者、保護者又は付添人のない6歳未満な者
- 三 てい酔者、伝染病患者その他観覧者に不快の感を与えると認められる者

（観覧券等）

第5条 館の特別展覧会観覧券は、別記第1号様式とする。

2. 団体（20人以上の場合をいう。）で観覧しようとするときは、あらかじめ団体観覧申込書（別記第2号様式）により、館長に申し込まなければならない。

（禁止行為）

第6条 入館者は、次に掲げる行為をしてはならない。

- 一 展示品に手をふれること及び展示室でインク、墨汁類を使用すること。
- 二 許可なくして展示品を模写し、又は撮影すること。
- 三 所定の場所以外の場所において喫煙又は飲食すること。
- 四 その他他の入館者の妨げになるような行為をすること。

（損害の賠償）

第7条 館長は、入館者が館の展示品、建物若しくは備品等をき損し、又は汚損したときは、現品又は相当の代価をもって弁償させることができる。ある。

（委任）

第8条 この規則の施行に関し必要な事項は、教育長の承認を得て、館長が定める。

附則

この規則は、昭和46年1月15日から施行する。

別記様式（省略）

## 2. 使用料及び手数料条例（抜粋）

昭和31年3月31日条例第6号

（趣旨）

第1条 県が徴収する使用料及び手数料（以下「使用料等」という。）に関しては、別に規定するもののほか、この条例の定めるところによる。

（使用料等の徴収）

第2条 県が所有し、又は管理する行政財産及び公の施設（以下「財産等」という。）の使用並びに特定の個人のためにする事務（以下「事務」という。）に関し、法令及び他の条例に規定するもののほか、当該事務を依頼しようとする者から手数料を徴収するものとする。

（種類及び額）

第3条 前条の規定により使用料等を徴収する財産等及び事務の種類並びにその使用料等の額は別表第一に掲げるとおりとする。

（中略）

別表第一（第3条第1項抜粋）

財産又は事務の種類	手数料	区分	単位	額
博物館	入場料	特別展覧会	1人1回につき	300円以内

（以下略）

館

### 3. 展示室使用料

昭和50年4月1日千葉県教育委員会指示第71号

1. 千葉県立美術館展示室の使用料については、使用及び手数料条例第5条第3項に基づき減免することとし、当分の間次表のとりの額とする。

室名	面積	使用料 午前9時から午後5時まで	
		観覧料無料, 展示物販売を しない場合	観覧料有料又 は展示物販売 をする場合
第一展示室	438㎡	4,000円	左の倍額
第二展示室	400	4,000	〃
第三展示室	469	4,500	〃
第四展示室	403	4,000	〃
第五展示室	824	8,000	〃
第六展示室	330	3,000	〃
第七展示室	567	5,500	〃
全室	3,431	33,000	〃

ただし、県及び県教育委員会が共催ないし後援する場合並びに国又は他の地方公共団体の主催ないし共催する行事に係る使用の場合は無料とし、その他県教育委員会教育長が特に教育的文化的意義を認める行事に係る使用の場合は上記の半額とする。

2. 千葉県立美術館展示室の使用の許可に関する取扱いは、別紙「千葉県立美術館展示室の使用許可に関する取扱要綱」によるものである。

#### ●千葉県立美術館友の会会則

(名称)

第1条 本会は、千葉県立美術館友の会という。(略称、葉美会)

(事務所)

第2条 本会は、事務局を千葉県立美術館内におく。

(目的)

第3条 本会は、千葉県立美術館(以下「館」という。)の活動に協力し、楽しいふんい気のなかで、教養を豊かにし、美術文化の向上をはかり会員相互の親睦を深めることを目的とする。

(事業)

第4条 本会は、前条の目的を達成するため次の事業をおこなう。

- 1 館の展覧会の見学鑑賞
- 2 講演会、講習会、研究会等
- 3 館外見学会
- 4 機関紙等の編集刊行
- 5 その他目的達成に必要な事業

(会員)

第5条 本会は、会の目的に賛同するものをもって組織する。

1. 会員には次の特典がある。

- ①館の主催又は共催による展覧会観覧の優待
- ②美術館報「みる・かたる・つくる」ならびに友の会機関紙の配布
- ③本会発行の図録等の配布及び割引購入
- ④本会事業への参加

2. 本会活動に協力し、賛助会費を納めたものは賛助会員とする。(会員の加入・退会)

第6条 本会に加入する場合は申込書に入会金(500円)を添えて事務局に提出し、会員証の交付を受ける。退会の際は退会届を提出する。

(役員)

第7条 本会に次の役員をおく。

- 会長1名 副会長3名(ただし内1名は美術館長があたる)  
理事若干名 事務局長1名 監事2名 評議員若干名  
1. 会長・副会長・理事・事務局長・監事の選出は評議員会において推挙する。

2. 役員任期は2年とする。ただし再任は防げない。

(役員等の任務)

第8条 本会の役員等の任務は次のとおりとする。

1. 会長は本会を代表して会務を総理し、会議を召集し、その議長となる。
2. 副会長は会長を補佐し、会長事故あるときはこれを代理する。
3. 理事は会の運営にあたる。
4. 事務局長は会務を処理する。
5. 監事は本会会計の監査をする。

(顧問・名誉会員)

第9条 この会に顧問及び名誉会員をおくことができる。顧問及び名誉会員は評議員会で推挙する。

(支部)

第10条 地域、並びに職域ごとに20名以上の会員を有する場合は支部をおく。

(評議員会)

第11条 各支部より20名につき1名の制で推せんされた代表と賛助会員及び講座代表をもって評議員会を構成する。評議員会は毎年1回以上開き、事業計画、予算、役員決定その他の重要方針を決議する。

(会費)

第12条 本会の普通会員は毎年度当初に年額1500円の会費を納入する。

1. 5月以降の入会者については1ヵ月ごとに100円を減減するものとする。ただし減減金額は900円を限度とする。

(経費)

第13条 本会の経費は会費、寄附金、事業収益金、その他の収入をもってあてる。

(会計年度)

第11条 本会の会計年度は毎年4月1日にはじまり、翌年3月31日におわる。

(職員)

第15条 本会の事務局職員は館に勤務する者以外から、会長が委嘱する。

(付則)

1. 本会の会則は評議員会で出席者の過半数の同意を得なければ変更することができない。

2. 本会則は昭和50年6月28日より施行する。

●昭和51年5月29日一部改正 ●昭和52年4月21日一部改正

●昭和53年4月20日一部改正



## 利用案内

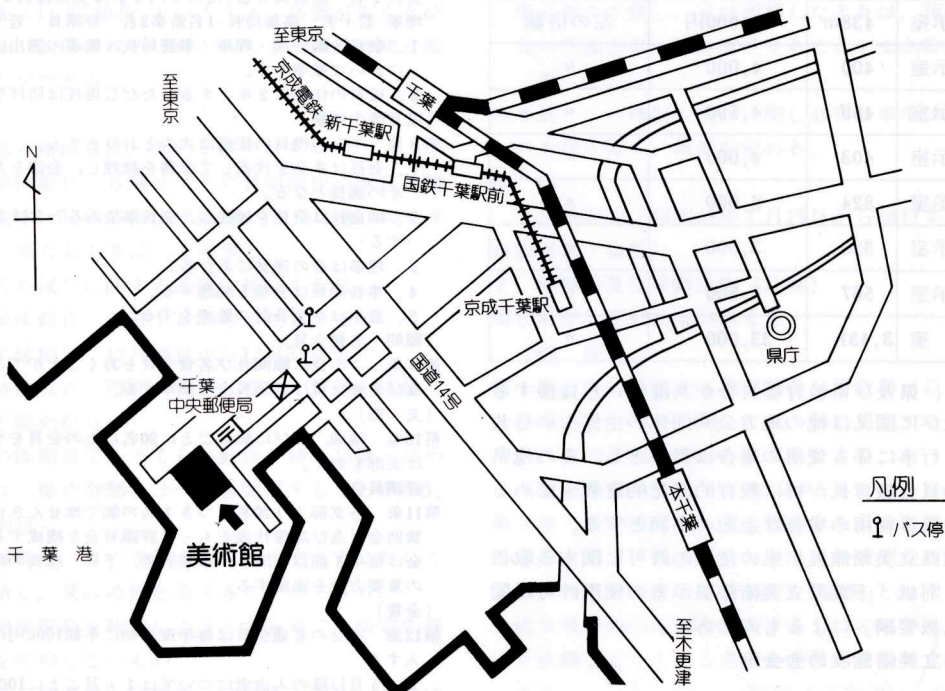
- 開館時間** 午前9時より午後4時30分まで
- 休館日** ・月曜日（ただし、月曜が祝日のときは開館し、翌日休館）  
 ・年末年始（12月26日～1月4日）  
 ・展示替等のため、必要があるとき。
- 入場料** ・無料（ただし、特別展は有料）
- 団体観覧** ・団体で来館されるとき、あらかじめご連絡あれば作品等の解説をします。

## 交通案内

国鉄千葉駅前バス停③④番より「千葉市役所行」小湊京成、中央各バスで終点下車、徒歩約10分・⑦番「新港行」小湊、京成バスで中央署前下車、徒歩約6分

※日曜・祝日に限りそごうデパート前より美術館行きバスが運行されています。

## 案内図



### 昭和56年度職員

- |     |               |       |  |
|-----|---------------|-------|--|
| 館長  | 高橋 在久         |       |  |
| 副館長 | 安増 順          |       |  |
| 庶務課 |               |       |  |
| 課長  | 高梨 義男(6.16まで) | 小泉 幸代 |  |
| "   | 内山 昭氏(6.16より) | 宮内 速男 |  |
|     | 菅井富美子         | 前川 公秀 |  |
|     | 田辺 正憲         | 山内 章子 |  |
|     | 一杉 徹          | 高木 正  |  |
|     | 篠原 恒雄         | 加曾利和夫 |  |
|     | 長島 則子         | 佐久間文孝 |  |
| 学芸課 |               | 中村 哲  |  |
| 課長  | 高橋 瑛          | 田村 潤子 |  |
|     | 鈴木喜久夫         | 大久保 守 |  |
|     | 藤川 正司         | 松本 衛  |  |

みる・かたる・つくる

千葉県立美術館年報(昭和55年度)

発行 千葉県立美術館

〒260 千葉市中央港1-10-1

TEL 0472 (42) 8 3 1 1

印刷 正文社



